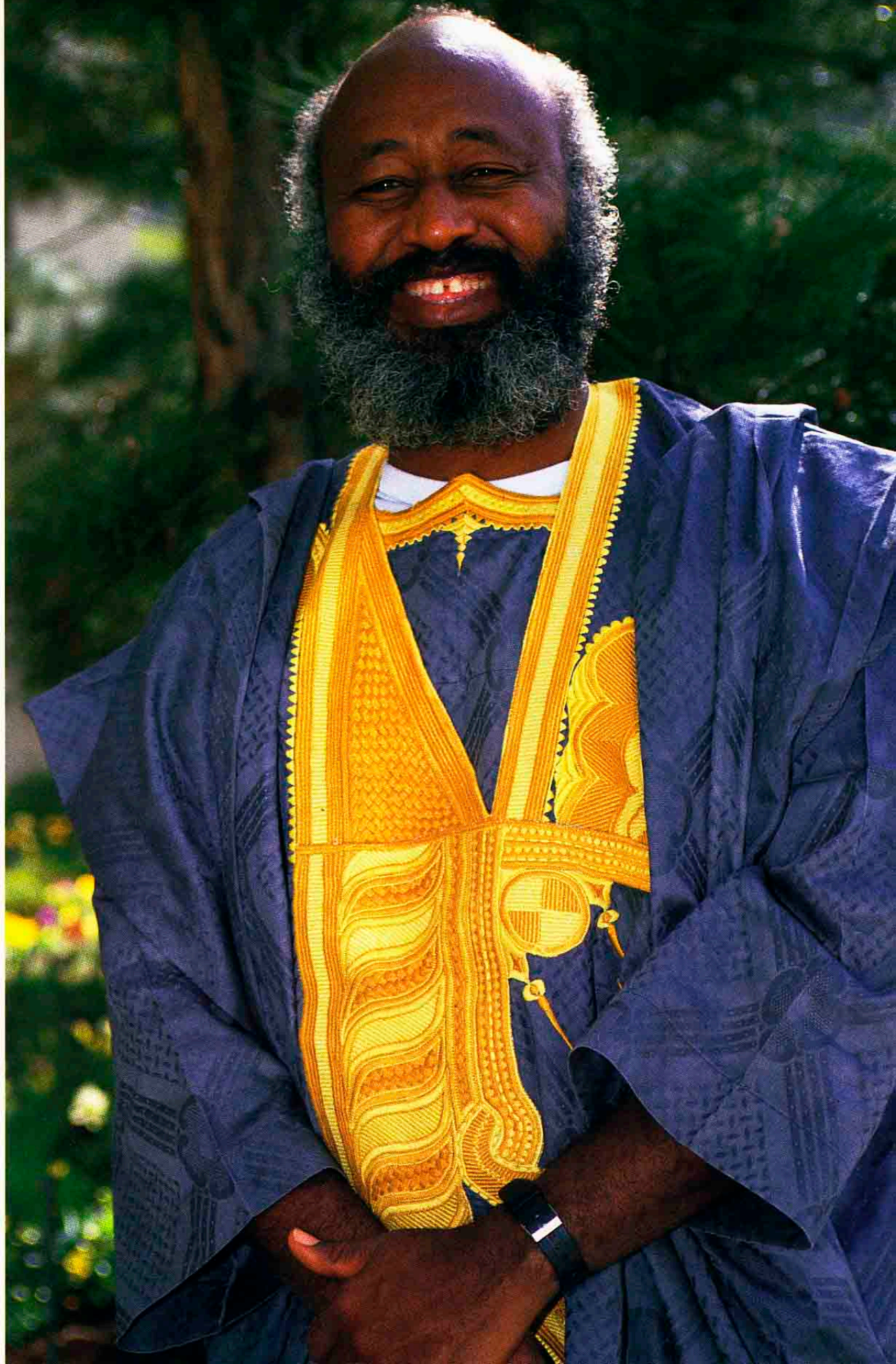


# 聖徒の道

8  
1993



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会



# 聖徒の道

1993年8月号

## 一般

大管長会メッセージ——警めの声

大管長エズラ・タフト・ベンソン ..... 2

試練の後に祝福が モディボ・ディアラ ..... 8

結婚生活における愛と笑いと靈性 バーバラ・ワークマン ..... 12

ヨーロッパ地中海地域——新たなチャレンジと成長 ..... 22

ヒーバー・J・グラント——なすべきことを回避しなかった人

レオン・R・ハートショーン ..... 26

韓国, 美しい朝の国 ケリー・リックス・アダムズ ..... 34

## 青少年

本当の愛と幸福 ニール・A・マックスウェル ..... 19

ひとりだけの場所 ジョージ・ディクソン ..... 33

若人の広場 ..... 42

バルセロナで最も価値あるもの リサ・A・ジョンソン ..... 46

## 定期特別記事

読者からの便り ..... 1

家庭訪問メッセージ——よりよい地域社会を築く ..... 25

## こども

モルモン経物語 アンモン, ラモーナイ王の父に会う ..... 2

小さなお友たちへ ロナルド・E・ポールマン長老 ..... 4

だれにしたがうか リンダ・エバンズ ..... 6

おもちゃばこ ..... 10

分かち合いの時間 予言者にしたがいなさい

ジュディ・エドワーズ ..... 12

友だちになろう スペイン, カナリアしょ島のサンタクルースデテネリフェ  
に住むルーイマン・ダビッド・エルナンデス・モンテロ

ジュリー・ウォーデル ..... 14



表紙——モディボ・ディアラ兄弟は、自分が生まれたアフリカ西部の国、マリで最初の教会員となった。写真撮影クレイグ・ダイヤモンド。(本文「試練の後に祝福が」pp. 8—11参照)

こどものページ表紙——ルーイマン・ダビッド・エルナンデス・モンテロは、スペイン、カナリアしょ島のサンタクルースデテネリフェに住んでいます。ルーイマンがいるだけで、家ぞくや友だちは毎日とても幸せな気持ちになります。ルーイマンのお話は、14ページの「友だちになろう」にのっています。写真撮影ジュリー・ウォーデル。

# 聖徒の道

1993年8月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン  
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット  
顧問：レックス・D・ピネガー、ジョン・H・グロバーグ、V・ダラス・メリル、ロバート・E・ウエルズ  
編集長：レックス・D・ピネガー  
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

## 国際機関誌

編集主幹：ブライアン・K・ケリー  
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー  
編集副主幹：デビッド・ミッチェル  
編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー

工程管理：トム・フォセット  
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ  
アートディレクター：スコット・D・バン・カンベン  
デザイナー：シェリー・クック  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、ステイフ・テイソン、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー  
配送部長：ジョイス・ハンセン  
聖徒の道 1993年8月号第37巻第8号  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106 東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351  
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード  
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)  
半年予約 1,100円(送料共)  
普通号 150円、大会号 350円

Copyright © 1993 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1991年10月 翻訳承認—1991年10月 原題—International Magazine AUGUST 1993. Japanese. 93988300.  
●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

## 読者からの便り

### 最高の雑誌

もし世界で一番すばらしい雑誌を挙げるように言われたら、間違いなく『リアホナ』(スペイン語版)です」と答えるでしょう。試練に直面しながらも屈しなかった人たちのさまざまな記事をはじめ、どのページを開いても、信仰と忍耐、そして愛の模範が満載されています。私は特に、教会がまだ揺らん期にある地域の記事が好きです。ドミニカ共和国  
バラオナ地方部ベイツイ支部  
クリスチャン・ラミーレス

### 興味を引かれました

私は教会に入らずと前に「リアホナ」(スペイン語版)を紹介されました。姉が教会員なのでいつも「リアホナ」が家に置いてあったからです。私はその中の記事やメッセージ、そしていろいろな意見を読んでいるうちに、教会とその使命について非常に興味を持ちました。私はもっと知りたいと思い、専任宣教師と会うようになりました。結局、私は父とふたりでバプテスマを受けることになりました。今では自分でも「リアホナ」を購読しており、教会員でない友達にこの機関誌のことを紹介しています。

チリ  
キョータステーキ部コルビワード部  
パトリシオ・O・ロボス

### 霊的成長

教会員になってから2年以上たちますが、「リアホナ」(スペイン語版)が私の人生で助けになっていることに感謝しています。

「リアホナ」の記事を読むと、とてもすばらしい気持ちになります。大管長会のメッセージに心から感謝しています。そのメッセージが神の靈感によるものであると知っています。また子供とともに子供向けの記事を読むのも楽しみにしています。

この機関誌が自分の霊的成長に役立っていると感じているのは私ひとり

ではありません。ほかの多くの人も同じようなことを言っているのを耳にしました。

ホンジュラス  
ラ・エントラーダ地方部サンタバルバラ支部  
ジュニー・アラセリ・リペーラ

### 編集部から

上記の投稿からわかるように、私たちが受け取る手紙のほとんどは「リアホナ」(スペイン語版)の読者からのものです。私たちは彼らに感謝し、また手紙をいただけることを喜んでいきます。

一方で私たちは、ヨーロッパ、アジア、南太平洋地域など、スペイン語以外の22にわたる言語でこの機関誌を購読していただけるかたがたからのお便りもいただきたいと思っています。この国際機関誌の内容は、どの言語で出版されていても、記事、イラスト、写真ともまったく同じものです。つまり、「ローカルページ」を除いて世界じゅうの会員たちが同一の記事を読んでいることとなります。

世界じゅうの読者の皆さんが、この国際機関誌に対してどのような考えを持っていらっしゃるか、伺いたいです。皆さんのご意見は今後どのような記事を掲載するか検討する際、大いに参考となります。また、この機関誌で採り上げてほしい福音のテーマで、世界じゅうの聖徒たちにとっても有益と思われるものがあれば、提案としてお寄せください。もちろん皆さんが書いてみたいと思いのテーマや分かち合いたいと思われる体験もお待ちしています。

あて先は下記のとおりです。

International Magazines  
50 East North Temple Street  
Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

氏名、国名、住所、所属ステーキ部/伝道部/地方部、ワード部/支部名を明記してください。お便りはワープロで打つか、かい書でお書きください。こちらで翻訳いたしますので、日本語でけっこうです。







# いまし 警めの声

大管長  
エズラ・タフト・ベンソン

162 年ほど前、教会の長老たちが大会に集まって、それまで与えられた啓示を世に出すべきかどうかを決断しようとしていた時のことです。

主は教会に対してひとつの啓示を与えられ、それは主の啓示の書の「はしがき」となるものであると言われました。教義と聖約第1章となったこの啓示には、一般の書籍のはしがきと同じような役割があります。つまり、この書物に載せられている啓示がなぜ与えられたのか、その目的を著者が説明することによって、読者に心構えをさせるという役割を持っているのです。教義と聖約の著者は、主イエス・キリストであり、予言者ジョセフ・スミスをお使いになって著わされました。教義と聖約は、教会の標準聖典の中でも、独特の位置を占めています。それは、著者が主であるからだけでなく、この書物が現代の聖典でもあるからです。

このはしがきは、全人類、とりわけ主の教会の会員に対する呼びかけで始まります。「警めの声」はすべての人々に及ぶものであるから、啓示には心して

教義と聖約はまことの書物です。なぜなら原著者としてだれよりも信頼のおけるお方、イエス・キリストをいただいているからです。また、イエス・キリストのみ言葉は、万人のために与えられたものです。



耳を傾けなさい、という呼びかけです。(4節参照)

天使モロナイは、予言者ジョセフ・スミスに、聖書の予言をいくつか引用して語りました。そして、末の世には確かに裁きが下されるはずであり、それらの予言は現在まだ成就していないが、やがて必ず成就する日が来る、と告げました。

「聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。

誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。

また、おおよそ教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれん。そは、彼らの罪悪は公に告げ知らされて、そのかくれたる行為の発かるべきを以てなり。

而して、この末の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん。

この末の世の弟子たちは進み行けど、一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ、彼らに命じられたらばなり。

この世に住める人々よ、見よ、こはわが權威にしてまたわが僕らの權威なり。こはまたわが誠命の書のはしがきに、その書は汝らに公にせんためわが彼らに与えしところなり。

この故に汝ら世の人おそれおののけ、そは主なるわれ誠命の中にて命じたることは成就すべければなり。」(1-7節)

次の3節では、この神権時代のメッセージを携えて行く主の僕たちは、主からどのような権能を授かっているか、ということについて、主ご自身があらゆる人に向けて宣言しておられます。

「而して誠にわれ汝らに告ぐ、世に住める人々にこのおとずれを持ちて進み行く者どもには、天に於ても地に於ても、福音を信ぜず教えにそむく者たちに対する証詞を結び固むる権能与えられ、

また、誠に神の怒り限りなく悪しき人々の上に注がる日まで、

すなわち、誠に主来たりてあらゆる人にその為せる行為に従いて応報を与え、また彼らとその同胞を計りし秤を以て彼らすべての者を計るべき日まで、彼らに対する証詞を結び固むる権能与えらる。」(8-10節)

これに続く聖句では、なぜ主がそのメッセージの対象をこの時代の人々としたのか、その理由が説明されています。

「この故に、主の声は耳ありて聞かんとするすべての人々に聞かれんため地の果にまで及ぶ。

されば汝ら備えをなせ、まさに来るべき事のために備えをなせ、そは主の来るは近ければなり。

而して主の怒りは燃え、主の剣は天にてうのおいたれば、今やこの世に住む人々の頭に下されん。

その時主の腕現われて、主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず、予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日来るなり。

そは彼らわが儀式より離れ去り、わが永遠の誓約を破りたればなり。

彼らは主の義を打建てんために主に求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求めども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて、すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。」(11-16節)

次に主は、なぜジョセフ・スミスが福音の回復のために召されたのか、その理由を明らかにしておられます。さらに、ジョセフが召されたことにより、全人類はどのような祝福を享受できるかについても告げられました。

「されば、主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス(二代目)を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶ様誠命を与えられたれど、すべてこは予言者たちの記せし事の成就せんがためなり。

すなわち世の弱き者たち出で来り、人その同胞を議りまた肉の権力に依り頼まざらん様力ありて強き者たちを打ち破らん。

されどこは、あらゆる人々主なる神すなわち世の救い





「されば、主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス(二代目)を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。」(教義と聖約1：17)

主の名によりて語らんため、

信仰もまた世に高まり、

わが永遠の誓約は確立せられ、

完全なるわが福音、弱き者たち単純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ、また王と統治者との前に宣べられんがためなり。」(17—23節)

教会が組織されてから1年余りが経過していました。そして多くの人が、回復されたイエス・キリストの福音

を受け入れたおかげで、豊かに祝福を受けていました。主はさらに、これに続く聖句の中で、数々の啓示を通して人々の生活がどのように変わったかについて、また、現在でも教義と聖約を読む者は祝福を受けることについて述べておいでになります。

「見よ、われは神なり。而してこの事を語れり。これらの誠命はわれより出で、わが僕らの理解せんがため、彼らの言葉ぶりにならいてわが僕らの弱きままに与えられたり。

彼ら誤りたらば明らかにさるるを得、  
 智恵を求めたらば教えを授けらるるを得、  
 罪を犯したらば悔い改むるために懲しめらるるを得、

へり下りたらば強くせられて天の祝福を受け、また折々知識を与えらるるを得るためなり。」(24—28節)

次の2節で主は、モルモン経を世に出し、啓示を受け、「全地の面に於ける唯一の真にして生命ある教会」を明るみに出す権能をその僕たちに授けたことについて触れておられます。

「またさきにニーファイ人の記録を受けたる後、誠にまことにわが僕なるジョセフ・スミス(二代目)は神の恩恵を通して神の能力によりモルモン経を翻訳する能力を与えらるるを得、

またこの誠命を受けたる者たちもこの教会の基礎を置き、人に知られぬ所よりまた暗き所より、全地の面に於ける唯一の真にして生命あり而も主なるわれの悦ぶこの教会を明るみに出す能力を与えらるるを得。われ悦ぶとは一人一人を指すにあらざして、わが教会員全体に就きて言えるなり。」(29—30節)

主イエス・キリストは、続いて、ご自身の教会の会員に対して、罪を悔い改めなければみたまを失うことになると警告していらっしゃいます。

「すなわち、主なるわれは罪を見ていささかもこれを許すを得ざればなり。



さりながら、悔い改めて主の誠命を行う者は赦されん。而して悔改めをなさざる者は、彼のすでに受けたる光明までも取り去られん。そは、わが『みたま』常には人を励まさじ、とは万群の主の言なればなり。」(31—33節)

続く聖句には、地上から平和が取り去られ、サタンがみずからの領土を支配するようになると書かれています。しかし、主はその聖徒たちを支配する力を持っておられます。

「またわれ誠に汝らに告ぐ、世に住める人々よ。主なるわれは、これらの事を進んですべての人に知らせんと思ふなり。

そは、われは人々を偏り見る者にあらざれば、すべての人々をしてその日の速に來るを知らしめんと思ふなり。而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。

されど主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。而して……この世に下る審判のために天より降り來らん。」(34—36節)

最後に主は、この啓示は真実の教えであり、その中で宣言されている予言は必ず成就すると証されています。さらに、主が任命された僕たちに授ける言葉は主のみ言葉となり、主の啓示や戒めが真実であることは、みたまが証をすと言われています。

「人々よ、これらの誠命をしらべよ。そはこれらは真実なる誠命にして、その中に言われたる予言も約束もすべて成就さるべければなり。

主、われ言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも、わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言わるるも、僕らの声にて言わるるもみな一つなり。

見よ、みよ、主は神にして『みたま』は証す。また、この証は真実にして真理は永遠に変わるることなし。アーメン。」(37—39節)

私が、末日の世界の状態について語られた主のみ言葉をここで述べたのは、次のような理由からです。

現在私たちは教会として、教会の宣教師を通じて、全地のあらゆる国民に警告の声を発しています。私たちの

メッセージを受け入れてくださる人々に福音を伝えるために、宣教師を送り出しているのです。この話に耳を傾けている若い男性が、こぞって主のみ使いとして働く計画を立ててくださるよう、心から願っています。

これからの時代には、数々の難局が私たちを待ち構えています。主は、世界の諸国民が、主の戒めや啓示に従順に従わず、その教えをないがしろにしているため、いつか災難を下すであろうと予言されました。しかし、一方では、主はその大いなる愛と慈悲により、主の福音を伝えるために、予言者ジョセフ・スミスやほかの僕たちを起こされました。それによって、信仰が世に高まり、主は全人類の間に永遠の誓約を確立されるのです。

その永遠の誓約こそ、主の福音です。

この啓示、すなわち教義と聖約第1章に含まれる以下の数々の宣言を深く心に留めるなら、教会員は皆、強められるでしょう。この啓示が現在の教会に向けて与えられた主のみ言葉だということを忘れないでください。

1. 予言者ジョセフ・スミスの働きは神の導きの下で行なわれたものであること。

2. ジョセフ・スミスが受けた数々の啓示は、主ご自身が下された戒めであること。

3. 一連の戒めは、「僕らの理解せんがため、彼らの言葉ぶりにならいてわが僕らの弱きままに」(24節)神の僕たちに与えられたものであること。

4. モルモン経は、神の恵みと力によって翻訳されたものであること。

5. ジョセフ・スミスとその後継者たちは、長期間にわたって人に知られることもなく暗黒の状態にあった、唯一のまことにして命ある教会を組織するよう命じられたこと。実際、回復されたこの教会は大きな影響力を持つ優れた組織として広く認められています。

6. 主は教会員全体については喜んでおられるものの、教会員一人一人については必ずしも満足していらっしゃる。私たちは、主の戒めに従って初めて、主から喜んでいただけること。

7. たとえ平和が地上から取り去られ、サタンが大きな力を持つとも、主はその聖徒たちを支配し、「その真中にありてこれを統治」(36節)されること。



私は主がその僕たちの近くにいらっしゃることを証します。主は、ご自分がお選びになった僕たちを通じて、確かに私たちの真ん中であって統治しておられます。私は、現在大管長会が主から指示をいただいていることを証します。

ジョセフ・スミスは真の予言者です。ジョセフ・スミスはこの教会の基を置き、主から祝福と栄誉を賜りました。

教義と聖約はまことの書物です。なぜなら、原著者としてだれよりも信頼のおけるお方、イエス・キリストをいただいているからです。また、イエス・キリストのみ言葉は、万人のために与えられたものです。

私たちが皆、神の祝福をいただいて、主の戒めに真心から忠実であることができますように願っています。□

(ベンソン大管長が、1986年3月22日、オハイオ州ハイラムの教会堂の鍍入れ式に際して語った説教からの抜粋)

### 話し合いのポイント

地から平和の取り去られる日は速やかに来ます。しかし、「主もまたその聖徒らを支配し、その真ん中にありてこれを統治せん。而して……この世に下る審判のために天より降り来らん。」(教義と聖約1:36)

8. 主ご自身がおっしゃることであっても、その僕たちへの靈感や啓示を通して語られるものであっても、主のみ言葉はことごとく成就すること。そして、そうした啓示や戒めが真実のものであることを知りたいと求める者は、皆、聖霊の証を受けられること。

兄弟姉妹の皆さん、私はこの教会、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会が主の教会であることを証します。主はご自分の教会の発展を喜んでおられます。

1. 教義と聖約第1章は、この書物全体のはしがきとして、主ご自身が与えられたものである。主は全人類に向かって、啓示に心して耳を傾けるよう呼びかけておられる。

2. そのはしがきの中で、主は末日に下される災難について予言し、また、ジョセフ・スミスが福音を回復するために召された理由を明らかにされている。

3. 主は、たとえ地上から平和が取り去られ、サタンが威勢を振るおうとも、主はその聖徒たちを支配される、と証しておられる。

4. 主は教会員全体については喜んでおられるものの、会員一人一人については必ずしも満足していらっしゃらない。私たちは、主の戒めに従って初めて、主から喜んでいただけるのである。





モディボ・ディアラ(次ページ), バマコの自宅の外で家族と。この写真を撮った時  
長男のアマドゥーはカナダ・モントリオール伝道部で伝道中だった。

## 試練の後に祝福が

モディボ・ディアラ

シャーリー・ラウンディー・アーノルド, ジーニン・テューによる聞き書き

**私**はモディボ・ディアラといいます。恵まれて、1981年に、故国マリでバプテスマを受けた最初の教会員となりました。以来、私の生活は信じられないくらい大きく変わりました。すべては愛犬の病気が始まりだったのです。

マリはアフリカの北西部にあり、気候は暑く、雨が少なく、乾燥しています。公用語はフランス語ですが、多くの人はこの地域の言葉であるバンバラ語を話します。大部分の人がイスラム教徒です。首都バマコは、ニジェール川に臨む中規模の都市で、私たち家族はこの街で典型的なマリ人の生活を送っています。

我が家は、広い中庭を四方から四角い壁で取り囲む造りになっていて、部屋から中庭に出られるようになって

います。庭にある1本の大きな木の陰は、家族が集まる場所となっています。一方の壁の手前には、鶏とウサギ用の囲いがあり、ヤギがえさを探してあちらこちらと歩き回っています。

ある日のこと、我が家の犬が病気になり、私は狂犬病ではないかと思いました。当時私は学校の教師をしていた関係で、生徒のひとりから、アメリカ人の獣医で、マリで仕事をしていたジェリー・ザグ氏のことを耳にしました。私は早速ザグ氏に往診を依頼し、妻にお茶の用意をさせました。お茶を出すのは土地の習慣でした。ところが、この客はお茶を飲むのを辞退したのです。お茶を飲むことは自分の教会の教えに反すると言うのです。興味を引かれた私は、博士に次々と質問を浴びせました。







ザグ氏の来訪は、いくつかの好ましい結果をもたらしました。第1に、犬が狂犬病でないことが判明しました。しかし、もっと意味のあったのは、ザグ氏からフランス語の個人教授を頼まれたことでした。私は引き受けました。彼は、フランス語のレッスンを終わるたびに、自分が行っている末日聖徒イエス・キリスト教会のことを、私に教えてくれたのです。

この医師の誘いで、私はアメリカ人のふた家族と一緒に教会の集会に出席しました。集会は英語で行なわれていて、当時、英語がよく話せなかった私に、教会員はフランス語の「モルモン経」と「教義と聖約」「奇しきみわざ」をくれました。みたまがあふれんばかりに注がれ、結局、私は改宗してバプテスマを受けました。

改宗してからの私は、以前より良い夫、良い父親になりました。妻も子供たちも、私の変わりようが信じられない様子でした。上のふたりの息子、アマドーとガウスーは、教会について質問したり、モルモン経を読んだりするようになり、1984年にバプテスマを受けました。そのうち、ふたりはほかの若者たちを誘って、教会の映画を見たり、マリ在住のアメリカ人の会員と会ったりしました。正式な支部はありませんでしたが、私は表紙に「記録」と書いた緑色のノートに、聖餐会の記録をつけました。

教会員として私はたくさんの祝福を受けましたが、試しの時期も経験しました。1988年の2月、私は教職と教職員組合の指導者の地位を同時に失ったのです。仕事を探す私の努力はどれもこれも無駄でした。私はそれまでの生活をすべて教育に捧げてきました。その私が妻と6人の子供をどうやって養っていけばよいのでしょうか。しかも経済的な事情から、我が家には11人の親戚も同居しているのです。

お金を稼ぐために、皆苦労しました。妻は縫い物の内職をし、アマドーとガウスーは旋盤を使っていろいろな道具を作り、売りました。下の息子たちは靴磨きをし、母でさえ香辛料を売るささやかな商売を始めました。結局、何年も貯金した末にやっと購入した車まで手放さざるを得ませんでした。私は家族を養っていけるよう主に嘆願しました。

この苦しい時期に、ソルトレークシティの教会本部から1個の小包が送られてきました。中にはバンバラ語に翻訳された「福音の原則」の簡約版が入っています。

その翻訳を見直し、さらに賛美歌12曲を翻訳してほしいという要請でした。この仕事に取りかかるやその重要性に気づいた私は、できるかぎり正確を期するように努力しました。ぴったりした言葉や表現を見つけようと、たびたび悪戦苦闘しました。またある時は不思議なほど心が開け、まるでだれかが私に口述しているかのように思えました。(仕事を終えた後、私は支払われる予定の翻訳料の大半を受け取りませんでした。それを私の什分の一としたかったのです)経済状態は相変わらず苦しく、私は絶えず祈りました。

すると予想もしなかったことが起きました。5月になって、旧友のジェームズ・ファワードというアメリカ人の医師から1通の手紙が届きました。ファワード氏とは、彼が1985年にマリを訪れた時に会いました。彼の頼みで、私はマリ国内の視察旅行に同行しました。ところが、非常に驚いたことには、ファワード氏はなんと往復の航空券まで送って、私をアメリカの自宅に招いてくれたのです。

私はファワード氏の申し出に興奮し、感動しました。でもこの大変な時期に家族をおいて行くことなどできそうもありません。教会員たちはこの招待をぜひ受けるように勧めます。たぶん皆はこう言いたかったのでしょう。主は、私がアメリカに在る間に神殿に入る道を開いてくださると。やはり私も、「いつか」神殿に参入したいという夢を抱いていました。

それでもとにかく、私は「何をせねばならぬのか、前もってそれを知らずに」(I ニーファイ 4:6)出かけることができました。日々の暮らしがやっとの人間に、こんな費用のかかる旅行ができること自体とても信じられません。私が合衆国に到着してから、ファワード氏は、私のはるか2,000キロも離れた神殿への参入を強く望んでいることを知りました。彼は教会員ではありませんでしたが、「あなたの宗教を尊重して、ソルトレークシティまでの旅費は私が出しましょう」と言ってくれたのです。

私はソルトレークシティに着くとすぐ教会本部を訪ねました。その日のことは終生忘れません。私は七十人のアレクサンダー・モリソン長老によって長老の職に聖任されたのです。それから私は神殿に参入し、エンダウメントを受けました。神殿では皆がとても親切にしてくれました。私は神殿の美しさと静けさに深い感動を覚えました。また、初めて見る若い宣教師たちの姿にも胸を



ワレサブーグで農業や教育事業を行なう慈善団体の代表者や村の指導者と会うディアラ兄弟。(中央、座っている人)

打たれました。私も自分の息子たちに伝道に出してほしいと思いました。

翌日私は、マリで行なわれている多くの農業、教育事業を支援する、ある慈善団体の事務所を訪ねました。そこで働きたいと思い、何人かの責任者に会いました。しかし結局仕事は得られないまま、マリに帰国しました。

我が家の信仰の試しは、さらに5カ月続きました。その間、私は神殿の儀式を受けたことをどれほど感謝したかわかりません。それは私に力を与えてくれました。にもかかわらず、川の深みにはまっておぼれるときのような混乱した心境に陥ったこともしばしばでした。来る日も来る日も、困窮状態から救い出してくださるようにひたすら主に懇願しました。11月になって、奇跡が起きました。ソルトレークシティーで訪ねた前述の団体から電報が届いたのです。その団体のマリでの新しい事業の指導者に、私が決まったことを知らせるものでした。私は、主のみ手がおぼれる者を川から救い上げてくださったのだと確信しました。

私の仕事は、政府の役人や地元の指導者、村長たちとの交渉に当たるやりがいのある仕事です。できそうもないことを始めるときは、必ず「それは絶対不可能だ」と言う人々がいるものです。でも私は主が助けてくださることを知っているのです、祈ります。するとともかく問題

は解決します。私は今でも裕福ではありませんが、自分の家族と私を頼りにしている親戚を養っていくことはできます。しかも年に1回は仕事でユタ州へ行くこともできます。その時は神殿に入り、ときには総大会に出席できることもあります。

ほかにもすばらしいことがありました。1992年には、長男のアマドーがカナダのフランス語圏で伝道を終えました。彼はアフリカからの移住者やイスラム教徒をはじめ、多くの人々に教え、バプテスマを施しました。現在、アマドーとガウスーのふたりは、ともに合衆国で勉強しています。ガウスーもまた、いつか伝道に出たいと望んでいます。私は彼が伝道に出ることを、そして家族全員が教会に入ってくれることを、祈っています。子供たち全員がよく勉強し、正直な人になってくれるように願っています。

また、マリに教会が組織される日を楽しみにしています。この記事を作成している時点では、地元出身の教会員は私ひとりです。私はどんな状況の中でも祈り、モルモン経を読むことによって、霊性を維持しています。今でも使い古した緑色のあの「記録」ノートは大事に持っていますが、心には別の「記録」があります。主が祝福を注いでくださったことを、私は生涯忘れないでしょう。

□







# 結婚生活における 愛と笑いと 霊性

バーバラ・ワークマン

夫婦関係を強めるには、ふたりの関係を育てるのに必要なバランスの取れた栄養を与えることです。

**私**たちには、結婚したばかりのラリー夫婦のことがどうしても理解できませんでした。医学部に在学していたら、頻繁にはテニスをする暇などないはずなのに実際ふたりはよくプレーしていましたし、旅行にさえ出かけていました。ふたりよりもいくらか年齢が上で分別もある私たちは、ただ楽しむためだけにそれだけの時間を使えるほど人生は甘くないと思っていました。でも、ふたりはそれから現在に至るまでの20年間、相変わらず愉快地に結婚生活を送っていますし、私たちも彼らとともに過ごす、ほほえみと笑いの絶えないひとときが大好きです。

私たちと知り合ってから間もなく、ラリーは自分の考え方をこう話してくれました。「ぼくらの結婚は永遠に続く関係ですからね。もしも夫婦の関係が強くて幸せなものだったら、人生でどんな試練に遭ったとしてもやっていけます。でももしそうでなかったら、どんなすばらしい仕事であろうと、何であろうと、その埋め合わせにはならないのです。結婚生活こそ、ぼくの時間とお金、エネルギーのすべてにわたる最優先事項なんです。」

最近、私は夫のダンと一緒に彼らと私たちの結婚生活の違いについて話しました。私たちはお互いを好きになった当時のことや霊的に成長すること、そして9人の子供を産み育て、26回も引っ越しをした38年間に、泣いた



愛し合い、お互いにとって魅力的であり続け、深く温かい友情で結ばれ合っていたいし、楽しいことをして笑い合い、家族ですてきな思い出を作りたいと思いました。

り笑ったりしてきた事柄について思い出を語り合いました。

やがて、結婚生活で最も必要なものは、愛と笑いと靈性だとわかりました。愛し合い、お互いにとって魅力的であり続け、深く温かい友情で結ばれ合っていたいし、楽しいことをして笑い合い、家族ですてきな思い出を作りたいと思いました。そして、靈的な糧<sup>かて</sup>を得ること、つまり永遠の事柄についてともに祈り、学び、話し合うことが必要だと思いました。

もちろん最終的な望みは、昇栄することであり、子供たちが「真理のうちを歩」む(IIヨハネ1:4)姿を目にすることです。

今日のような混乱した世の中であって、この望みをかなえることは生易しいことではありません。ダンとふたり、私たちを取り巻く混沌とした状況に圧倒されそうになったとき、私は「平安」という題のついた絵を思い出しました。この絵には、巢で体を休める小鳥が描かれていましたが、その巢はナイアガラの滝の上に伸びた細い木の枝に作ってありました。私は自分たちの結婚生活のあるべき姿を思い描きました。つまり、愛に満ち、幸福で靈的な結婚生活、自分の巢で安心して休むあの小鳥を思い起こさせてくれるような家庭で送る結婚生活です。やがてダンと私は、愛と笑いと靈性をもって日の光栄の結婚を築いていくなら、私たちが抱いているこのような理想の家庭にしていけることを悟りました。

## 愛

私たちの結婚の中心は愛であり、それは実直さと良いコミュニケーションによってはぐくまれ、強められていくものです。

結婚式の数日前、ダンは私にこう言いました。「何が正しいかをいつもわかることはできないかもしれないけど、わかっているときにはそれを実行することを約束するよ。」それから、結婚式当日の朝早く、彼は手紙を書いてアパートの郵便受けに入れてくれました。その中にこんな言葉がありました。「今、天のお父様と話して、こう約束したところだよ。君に対して無作法でしんらつな言葉は決して言わないと。努力し続けたら、きっとそ

うできると思うんだ。それから、どうか忍耐してほくを励ましてほしい。」

私はダンの巻き毛や野球をするときにバットを振る姿が好きでした。でも彼の実直さややさしさがなければ、彼に対する私の愛は育たなかったでしょう。

私たちの愛が育っていくにつれて、私が幸せであることがダンにとってどんなに大切かがわかってきました。私自身はもっと魅力的になりたいと思ったり、完璧な主婦になりたいと思っていましたが、それらはダンにとってはそれほど重要なことではありませんでした。彼は私が希望の光を輝かすことを望んでいたのです。夫婦ほど、希望や楽観的な考え方を求められる人間関係はないでしょう。夫がしようとしていることや変わろうとしている努力に対して私が喜び、満足していることを知るのには、彼にとって大切です。そして、家族に囲まれながら、愛に満たされて永遠に暮らしていけることを考えると、私も精一杯の努力ができます。

子供たちや家庭にかかわる私の努力にダンが感謝を示してくれると、もっと努力しようという気持ちになります。また、彼が家族を一番に考えてくれることや、家計を支えるために勤勉によく働いてくれること、またすばらしい特質を備えていることなどに、私が感心して褒めると、彼は一層頑張ってくれます。もしも私が、初めに好きになった彼の長所について感謝を伝えることを忘れないならば、彼に対する私の愛はさらに高まりますし、大きな愛が返ってもきます。しかし、しんらつな非難の言葉で彼の自尊心を傷つけ続けるなら、日の光栄の家庭を築くための一番の基を崩してしまうことになります。

もうひとつ私が気づいたことは、ほっぺたにちょっとキスするのと、しっかりと抱き締めるのでは大きな違いがあるということです。彼が出勤するときに抱き締めてくれることは、私たち双方にとってとても大切だとわかったのです。その薬は一日じゅう、少なくとも夕方彼が帰宅するまで効いています。そして、もう1度抱き締めてもらいます。

愛する気持ちによって、必ずしも個性の違いが失われるわけではありません。私たちの友人、クレアはスポーツ好きで、中でもテニスが大好きです。一方奥さんのリングは縫い物や料理が好きです。しかし、彼女は、テニ



スのレッスンを受けることにしました。クリアが友人のジョンとダブルスを組んで、自分たちの奥さんペアに負かされた時のクリアの誇らしげな様子といったらありませんでした。そういうことがあったからこそ、彼女の才能や好みに対して、彼は一層の理解を示し、感謝するようになったのです。

個性の違いがあるからこそ、夫婦は一体となり、ひと

りでは得られないほどの奥行きと幅を備えられるのではないのでしょうか。たとえば、何かを決定するときダンと私はまったく違った道筋をたどります。私は、あらゆる角度から検討し、ほんの小さな事柄についても心配します。一方ダンは、見て素早く分析し(独断的な場合もしばしばですが)、決めたら最後考え直したりしません。そんな彼から私は、どの方法も有用であることを学びま





した。お互いの意見のよしあしを判断するのではなく、話し合うことで、そのときどきに一番合った方法をふたりで決めることができます。

それぞれ自分自身の成長に努め、現世での試練に立ち向かいながらも、私たちは夫婦として、生涯相手に合わせていく努力は欠かせません。しかし、忘れてならないのは、お互いがともに信じていることの本質に目を向け

ることです。「……だからあなたを愛しているわ」「……してくれてありがとう」「……をととても誇りに思っているよ」「……してごめんなさい」といった言葉としっかり抱き締めることで、私たちの永遠の関係はより豊かなものになるでしょう。なぜなら、そのような一瞬一瞬が私たちの結婚生活の中心である愛を養い育てていくからです。

日の光栄の両親の息子、娘である私たちは、日の光栄の民のように生活するとき、自分の霊が喜ぶのを感じます。日の光栄の原則を基としている結婚は、単にふたりの力を合わせた以上の強さを持っています。

## 笑...

ときとしてこの笑いは、愛と情欲の間にある距離ほどに、幸せからほど遠いものになってしまいます。伴侶を冗談の種にしたり、低俗なユーモアでけなしたりするなら、それは伴侶のみならず天父を傷つけていることになります。このような笑いは決してよしとされるものではありません。

しかし、人生の試練を和らげるような健全なユーモアは、幸福な家庭に不可欠です。人が結婚する理由のひとつは、一緒にいて楽しいからです。結婚した後も、互いに笑わせ合えたなら、どんなにすばらしいことでしょう。ダンのユーモアは、どんなときでも私たちの家族にとって喜びとなり、慰めとなりました。ある日、私が縫い物をしていて、カーペットの中に針を落としてしまったことがありました。ダンは一瞬ひざまずいて探し始めてくれました。私も一緒に探そうとすると、彼はこう言いました。「君はいいよ。きつとすぐにぼくの手に刺さって見つかるさ。」

どの夫婦にも、ふたりだけにしかわからない愉快な合図となった出来事があるものです。私たちの合図のひとつは、随分前に、ダンが思いついたことを私に話そうとした時に始まったものです。その思いつきがどのようなものだったかはふたりとも忘れてしまいましたが、私がその思いつきにすぐに反対してやり込めてしまったのは確かです。なぜなら彼が一瞬口をつぐんでからこう言ったからです。「まあ、一瞬いい考えだと思ったんだけどね。」それからというもの、どちらかがやり込められたと感じると「まあ、一瞬いい考えだと……」と言って、ふたりとも笑いだしてしまいます。そして相手の気持ちをはっきりと、でも和やかな形で伝わってくるのです。

家族の危機も、後になって教訓を含んだ笑い話になることがあります。私のおじ夫婦はいたずらをするのもされるのも好きな人たちで、水道が引かれていない農場に住んでいました。ある寒い雨降りの晩、おじがびしょぬれになって家に戻ると、おばは暖炉の前でぬくぬくと座っていました。おばは「あなた、びしょぬれで寒くなってるついでにバケツに水をくんで来てくださいな」と頼みました。おじは出て行くと、くんで来た水をおばに頭

からかけて言いました。「これで君もびしょぬれで寒くなったね。悪いんだけど水をくんで来てくれないかなあ。」ふたりが笑いながらしてくれたこの話は、私たち家族のお決まりの笑い話になりました。そして今では家族のだれかに、本当は頼むべきでないことや、甘えすぎだと知りながら頼み事をするときには、「びしょぬれで寒くなってるついでに……」という言葉で始めると、たいてい笑顔でやってもらえるのです。

結婚生活で健全な笑いを生み出す鍵は、信仰です。それは、神への信仰であり、お互いへの信仰であり、将来への信仰であり、自分たちが生きている今、この時を楽しみ、リラックスして生活するに足る信仰です。信仰を持つことによって、試練の中にあってもユーモアを見いだすことができるのです。

## 霊性

夫婦関係や家庭に主のみたまがあるように望むなら、私たちは「キリストの御許みもとに来てキリストによって全くなまつた〔り、〕神のみこころに背くことを捨てる」必要があります。(モロナイ10：32)キリストがおっしゃらないだろうと思えることは、たとえ家庭であっても口にしないことです。キリストが人ととの関係を清いものするために犠牲を払われるとしたら、私たちも、特に家庭で同じようにしなければなりません。霊性とは、キリストが愛されるものを愛することです。これは、心から日の光栄の結婚を望み、星の光栄の態度を捨てることです。星の光栄の態度とは、自分の望み、自分の楽しみ、自分の時間だけを考える利己的な態度です。また、他人がどう思うかを心配しすぎることは、さしずめ月の光栄の態度と呼べるでしょう。それは結婚生活にも害を及ぼしてしまいます。たとえば、自分の家族は周りの家族と比べて劣っていないだろうか、自分の家庭はいい方だろうか、自分の家族の余暇の時間の使い方を近所の人はどう思っているだろうか、といった心配はこれに当たります。

日の光栄の両親の息子、娘である私たちは、日の光栄の民のように生活するとき、自分の霊が喜ぶのを感じます。日の光栄の原則を基としている結婚は、単にふたりの力を合わせた以上の強さを持っています。



9人目の子供がおなかにいた時、検査の結果、私が癌にかかっていることがわかりました。医師から腫瘍の位置や大きさを調べようとすれば胎児を危険にさらすことになると言われました。かといって早産できるほどおなかの子供は成長していませんでした。しかし、癌が広がっているのは明らかでした。そして私たちは、危険を冒しても手術を受けるか、それとも子供がじゅうぶん成長するのを待つかを決断するように言われました。

私にはとても決められそうにないと思いました。生き長らえて8人の子供たちを育てたいとも思いましたし、おなかの子供を守りたいとも思いました。私たちは、おなかの子供に成長するための時間を与えながら、祈りの気持ちで主のみこころを求め、数週間葛藤の日々を過ごしました。こうして祈りと断食に明け暮れた後、答えが得られました。ダンは私にこう言いました。「パーバラ、きつとうまくいくよ。手術を受けることにしよう。」

神権の力により、ダンはこのむずかしい決断をする以上のことをしてくれました。ホームティーチャーと、やはり癌を患っている近所の方と、そして私の兄に来てもらい、この3人の助けを得ながら、イエス・キリストのみ名によって私と子供両方にとって最良の結果がもたらされると祝福してくれたのです。

手術の前の晩、ダンはまだ私に手紙を書いてくれました。「これまでの人生で、この数日間ほど心配し、自分を見つめ直したことはなかった。……ぼくたちは、信仰の高まりとともに底なしの恐怖も感じてきたよね。この経験を通して、ぼくは聖めを受けたよ。ぼくはそれが自分に必要だったことさえ知らなかった。君が受けた神権の祝福は、主が与えてくださったものだ。今晚、君と病室にいた時、君が信仰と不安とのほざまで戦っているのを感じた。ぼくも家に帰ってから、何時間も同じ思いだった。でもたった今、確かにはっきりと、主が君に与えられた祝福を結び固めてくださったのを感じたんだ。……(医師は)天のお父様のみ手に使われて、癒しに必要なことを行なってくださるだろう。」

手術は成功し、それから7週間後、元気な女の子が生まれました。その娘が今ではもう15歳になります。

苦労やチャレンジは尽きませんが、私たちは今も成長しようと努めています。ダンは、結婚式の当日約束して

くれたことを今も守ってくれています。自分が正しいと思うことは実行し、無作法でしんらつな言葉は決して口にしません。私は、自分が幸せで感謝していることを伝えるように努め、また何かを決めるのにあまり時間をかけないように努力しています。

教会教育部長のジェラルド・ランド兄弟から、アフリカのジャングルに病院を開くために、必要物資をトラックで運ぶ医療団の人々の話をお聞きしたことがあります。途中にあるいくつもの橋はトラックが渡れるほどしっかりしたものではありませんでした。彼らは、貴重な物資を降ろして荷を軽くする代わりに、川や谷間ごとに旅を中断して、橋を強化していったそうです。

私たちも日の光栄の結婚を築き始めたなら、選ぶ余地もなくすべての荷を終わりまで運ばなければなりません。重いからといって、子供の問題や経済的な負担、病気という荷を降ろすことはできません。問題を解決しながら進むトラックに乗っている私たちが大きな峡谷に差しかかる時、みずから進んで立ち止まり、橋を強化して結婚生活が成功の道をたどれるようにしなければならないこともあるのです。

このようにしていくならば、私たちの愛は深まり、ともに幸福を見いだしていけるでしょう。そして主をさらに身近に感じ、救い主が自分たちの家族をどれほど深く心にかけてくださっているかを知るようになるでしょう。

私たちが神殿で交わした結婚の誓約に忠実であるならば、主は、私たちは「王位、王国、公国、その他権能、領土すべての頂上と奥を受け継〔ぎ〕……彼処に置かれたる諸天使諸神の前を通り過ぎ、……あらゆる事に光栄を受」けると約束しておられます。(教義と聖約132:19)

もしもダンと私が永遠にともにいられたら、ふたりとも完全になるでしょう。私が今自分に与えられているチャレンジは、愛する夫の永遠の可能性に目を向けること、自分の欠点を根気よく直していくこと、そして彼が自分の欠点を直していくうえで主の力を受けられるよう協力することです。愛と笑いと霊性を通して、私たちふたりは昇栄に向かって歩んでいるのです。□

# 本当の愛と幸福

十二使徒定員会会員  
ニール・A・マックスウェル



**有**名な雑誌を読んでいたらこんな広告が出ていたとしましょう。「ラジウムで何千人もの健康が回復しています。ごく少量の放射性物質を含ませた布を、日中は背中に、夜は腹部に当ててお

くだけ。……ラジウムのおかげで……心臓、肝臓、じん臓の病気が治ったというお便りが、たくさんのかたがたから寄せられています。」

あなたなら、こんな広告はまず信じないでしょう。それでは、高名な心理学者がテレビでこう言ったとしたらどうでしょう。「純潔や美徳や結婚というものに対する昔の人の考えは、現代人の生き方とはかけ離れています。もっと標準を下げるべきではないでしょうか。」

実は、どちらの主張も本当にあった話なのです。雑誌広告の方は1930年に掲載されたもので、テレビでの話の方は、つい数年前に放送されたものです。今日の良識ある人々なら、放射性物質の話などは信じないでしょう。放射性物質の性質とその影響力については科学的に研究されていますし、科学的知識を持たない我々でさえも、放射性物質は軽率に扱える代物ではないことくらい知っています。

しかし残念なことに、くだんの心理学者をはじめとしてほかの多くの人々によってもなされている前述のような主張は、別の評価を受けています。多くの人たちは、純潔なんて時代遅れだ、という考えを受け入れるようになっているのです。少なくともラジウム療法の広告には、「すぐお試してください。お支払いは後で」という宣伝文句がだれの目にも留まるように記されていました。しかしながら、不徳を奨励するどのような記事にも「代償は後から」などという言葉は書いてないか、たとえあつ

たとしても、わからないくらい小さな文字で記されているだけなのです。

今は違いますが、かつての私たちは放射性物質の弊害について無知でした。それと同様に、私たち人間は神よりも次元の低い道を歩

んでいるので、神がなぜ私たちに十戒の7番目の戒め、つまり法律に基づいた結婚をするまでの純潔と、結婚後の貞節を守るようにという戒めを与えられたのか、まだ完全には理解できていないのです。しかし私たちには、完全でないにしてもじゅうぶんな知識が与えられています。つまり、この戒めを守ることによって必ず得られる、次のような祝福についての知識です。

1. 主を身近に感じることができます。主との関係を保っていれば、主のみたまがいつもあなたとともにあって、あなたを守り高めてくれるでしょう。毎週の聖餐式で、主のみたまが常に一同とともにあるようにと祈っていることを思い起こしてください。

あなたの思いが徳によって飾られているならば、あなたの主に対する信頼は「神の前に強く」(教義と聖約121:45)なることでしょう。主のみ前にあって、確信を伴った平安な気持ちでいられるというのは、私たちの現在の理解では計り知れない大きな祝福です。ここに、神から受ける喜びと単なる喜びとの大きな違いがあります。たとえそれが心からの喜びであったとしても、神から受ける喜びの方がはるかに大きいのです。

2. 自分が価値のある人間であることに気づき、その自尊心を保てるようになります。自分自身の価値がわかるようになると、あなたの隣り人をも心から愛せるようになります。「ことごとくの者、兄弟を己が身の如くに





思〔う〕」(教義と聖約38:24)ことができるようになるのです。

3. 徳高い生活を送るほどに、自分に本来備わっている個性を伸ばすことができます。反対に、罪を犯せば、個性は失われていきます。罪が私たちに萎縮させ、欲望の塊にまで落ちぶれさせてしまうからです。この世の終わりには不正がはびこり、人々の愛が「冷える」と言われています。(マタイ24:12参照)皆さんが愛を受けられなくなったとしたら、どんなに悲しいことでしょうか。

4. 重苦しくのしかかる罪の意識に悩まされることがありません。「絶望は悪い行いから来る」(モロナイ10:22)のです。罪悪感がなければ、自己憐憫に陥って殻に閉じこもることもありません。代わりに真に価値のある事柄に目を向けることができますでしょう。

5. ひどい危害を免れることができます。「4,300万人にも及ぶアメリカ人が、性的な関係によってウイルスに感染し、不治の病に悩まされている」(「デゼレトニュース」1991年10月7日付, p. A 7)と報じられています。

エイズをはじめとするこのような病気は、道徳的な観点から常にはっきりと言われてきたことを、医学的見地からも明らかにしています。つまり、肉体的な愛情表現は、結婚というきずなの下に行なわれるときのみ、安全であるということです。とりわけ、堅固に戒めを守ろうと努める夫婦の結婚生活は安全だと言えるでしょう。罪を遠ざけることは、罪のふちに片足を踏み入れたり、さらには悔い改めをするよりも望ましいことです。予防はどんな治療にも勝るのです。

6. 人としての完全さや落ち着きが増します。これによって、交際期間中や結婚生活、そして人生全般にわたって大きな恵みがもたらされるでしょう。そして、あなたが選んだ愛する伴侶は、単に肉体的な魅力を感じる対象、肉体的満足をもたらす対象としてではなく、ひとりの人間としてあなたに尊ばれることになるでしょう。あなた方の関係は深く、満ち足りた、幅のあるものとなり、永遠へと至るでしょう。

このように、純潔を守ることによって得られる祝福は、何も将来の結婚や裁きの日まで取っておかれるというわけではありません。現時点でも、こんなにたくさんの祝

人としての完全さや落ち着きを増しましょう。これによって、交際期間中や結婚生活、そして人生全般にわたって大きな恵みがもたらされるでしょう。そして、あなたが選んだ愛する伴侶は、単に肉体的な魅力を感じる対象、肉体的満足をもたらす対象としてではなく、ひとりの人間としてあなたに尊ばれることになるでしょう。

福が受けられるのです。純潔という言葉には、単に歯を食いしばって誘惑に抵抗すること以上の意味があります。正しい生活を送る人にとって、純潔とは幸福で平安な心の状態であり、導きや安心、そして日常生活での慰めを、現在から将来にわたってもたらしてくれるものなのです。さらに、純潔の律法を守るならば、自分が満たされることばかりを考える代わりに、ほかの人に仕えることに目を向けられるようになります。

モルモン経には町全体として清い生活を送っていた民のことが記されています。「まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。」(IV ニーファイ 1:16)

道徳的な清さに関する主の律法を守り、そのすばらしい祝福を享受するために、次の意見と提案について、じっくりと考えてみてください。

■ この世の見せかけの主張を受け入れないように。あなたがき然とした態度でいれば、きっとほかの人たちもあなたの側に立ってくれるでしょう。

■ あなたは、人に泥だらけの靴で自分の家を歩き回らせたりしないでしょ。それと同じように、あなたの心に汚れた思いが侵入しないように注意してください。わいせつでみだらなポルノグラフィのたぐいは、どのような形であれ避けるようにしましょう。見ることはもちろん、言葉に出すべきでもありません。このヘドロのような汚れに身をゆだねてしまった人は、それをきれいさっぱりと取り除くまでは、決して心の平安を得られません。

■ 純潔と貞節は連綿と続く鎖のように先祖から受け継がれてきました。あなた自身もこの鎖を構成する堅固な輪のひとつになってください。そしてその尊い遺産をあなたの子供にも伝えるのです。そうすれば、それは子から孫へと受け継がれていくことでしょう。あなたの周りでどのようなことが起ころうとも、主の戒めを信じていることを行ないによって示すならば、あなたはこの最も強いきずなで結ばれていきます。こうして純潔という力と強さを増し加えることができるのです。

■ 不道徳な人たちとの交わりを避けるようにしてください。なぜなら、C・S・ルイス(1898—1963年、イギリスの小説家)が書いているように、あなたがそういった人たちと付き合うには不釣り合いなほど立派な人物だか



らという理由ではなく、それらの人々に立ち向かえるほどの強さをあなたは持ち合わせていないからです。悪い環境に身を置くと、善良な人々でさえも誘惑に負けてしまうことを忘れないでください。

■自分の欲望を満たす道具として女性を見る利己的な男性は昔からいましたが、近ごろではそのような目で男性と接する利己的な女性も現われてきました。この種の人々は欲望に駆り立てられて、自由という言葉の意味を履き違えているのです。それは、アベルを殺した後にカインが「われを妨ぐる者なし」(モーセ5:33)とむなし言葉を語ったのと似ています。愛とは奪い合うものでもなければ征服するものでもありません。カインのように利己的な人たちは「幸福と言う性質に反する有様」(アルマ41:11)にいとと言えるでしょう。

■教会員は世の人々をさげすんだりすべきではありません。しかし世の人が私たちの標準をあざ笑うようなときは、そのあざけりと侮辱の言葉を見做し、気にかけないようにしましょう。「世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである」(ヤコブの手紙4:4)からです。

■悪い思いが心に生じたら、まだその思いが弱いうちに、そしてあなたの意志の力で克服できるうちに対処し

なさい。そして努めて善い事柄に心を向けるようにしてください。怠惰な心は人を利己的にしてしまいます。そのような心の人には自分を喜ばせることばかり考えるようになるからです。

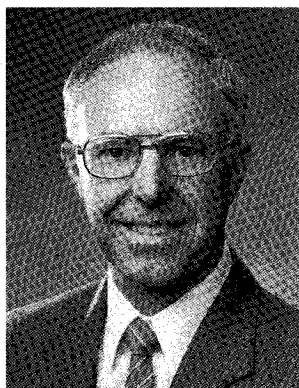
■もし過ちを犯してしまったとしても、私たちにはずばらしい悔い改めの福音があることを忘れないでください。真の清めと癒しを受けるには、初めは必然的に屈辱感にさいなまれることになりますが、心から自分の罪を後悔し、悔い改めに必要な段階を踏むすべての人には、赦しの奇跡が待っています。

あなたが本当に幸福になりたいのなら、「絶望は悪い行いから来る」(モロナイ10:22)ということをいつも心に留めてください。厳しいけれども愛のこもった純潔の律法を含め、戒めとは、私たちが不幸から守ってくれるばかりか、この世で幸福に通じる道に沿って設けられたガードレールのようなものです。さらに、この戒めこそが私たちをとこしえの喜びへと備えさせてくれるのです。予言者ジョセフ・スミスが教えたように「幸福は私たちが存在する目的であり目標」です。神の計画が「人に幸福を与える偉大な計画」(アルマ42:8)と呼ばれているのは、このような理由によるのです。□





リブランド・R・カーティス長老



スペンサー・J・コンディー長老



ジョセフ・C・ミュールン長老

# ヨーロッパ地中海地域

## 新たなチャレンジと成長

**ヨ**ーロッパ地中海地域には、キリストと初期のキリストの弟子たちが足跡を残した国々、また西欧文化を生み出した国々が含まれています。これらの国々で教会がどのような発展を遂げているかを知るために、本誌記者が地域会長会の3人のかたがた、すなわち七十人のスペンサー・J・コンディー長老、リブランド・R・カーティス長老、ジョセフ・C・ミュールン長老にお話を伺いました。

**質問**——かなり広範囲にわたる地域を管理していくうえで特にむずかしい問題はありませんか。

**コンディー長老**——たとえ問題があっても、私たちはそれをチャレンジとして捕らえることにしています。確かに問題はたくさんありますが、献身的な会員や指導者が各地にいてその解決に協力してくれています。

この地域には、35の国があり、それぞれの国に際立った特徴があります。フランスには5,500万の人々が住んでおり、ステーク部と地方部が6つずつあります。その一方では、ギリシャのように、支部が4つあるだけという国もあります。同国の人口は、1,000万人を超えていますが教会の歴史はまだ浅いのです。

ヨーロッパ地中海地域に属する国々の中には、アルジェリアのように、アメリカ合衆国の4分の1もの面積を有する国もありますし、モナコのように、ソルトレークシティーのテンプルスクウェアを48集めたぐらいの面積しかない国もあります。

**質問**——地域の管理を効果的に行なうためにどのよう

な方法を用いていますか。

**コンディー長老**——会長会として、一人一人が別々の国を担当し、直接み業の管理に当たっています。毎週火曜日になると地域管理本部で集会を開きます。残りの曜日は、それぞれの担当の地域で、伝道部を巡回したり、地方部大会やステーク部大会に出席したりします。

言葉や文化の違いに対処するうえでの助けを得るために、私たちは14の異なる国から教会員を管理本部職員として招いています。彼らは、言葉が堪能という点からだけでなく、献身という点からも貴重な働き手となっています。

**質問**——ヨーロッパ地中海地域には、全地域におおぜいの力強い教会員がいるようですね。

**カーティス長老**——そのとおりです。もちろん国によって成長の度合いは違います。たとえば、フランスなどでは、2世、3世、あるいは4世の末日聖徒が少なくありません。また、この地域では至る所で、帰還宣教師の兄弟姉妹が指導的な立場に召されて力強く働いている姿を目にすることができます。これは、私たちが若い兄弟姉妹の皆さんに伝道に出るようにと勧めている理由のひとつでもあります。伝道を通して訓練を受けた若い兄弟姉妹は、将来自分のワード部や支部で教会の成長に貢献することでしょう。

**ミュールン長老**——伝道はきわめて重要です。なぜなら、みずからの人生を捧げ、犠牲を払うことなしにはなかなか得られない霊的な特質を、この伝道を通して身に



つけることができるからです。またそれだけでなく指導者として必要な霊性を養うこともできます。まだ経験の浅い神権指導者の中には、決定を下すときに、みたまがどのように働きかけるのか実際に経験したことがないという人がよくいます。しかし伝道に出て数々の経験を積み、それぞれのワード部や支部に戻ってきた帰還宣教師は、次のような言葉を口にすることができるのです。「今まさに主のみ手が差し伸べられているのを感じます。」

**質問**——伝道に出たことのない人が、み業を遂行するためのそのような霊性を培うにはどうすればよいでしょうか。

**カーティス長老**——そのような人々は、夫婦宣教師の

スペインのセビーリャに住む末日聖徒の家族——ピリ(10歳)、ロリ(9歳)、ハイメ・ロメロ(6歳)、そして両親のビクトリア・カラスコソ姉妹とハイメ・カラスコソ兄弟。

献身的な働きから霊性の何たるかを学び取ることができるでしょう。私たちは、夫婦のどちらかひとり、あるいはふたりともがスペイン語、ポルトガル語、フランス語またはイタリア語のできる夫婦宣教師を必要としています。夫婦で伝道に出るかたがたは、必ずや胸の高鳴るような霊的な体験ができるとお約束します。夫婦宣教師は、非常に信仰のあつい会員に囲まれて働くことができるからです。私は教会に集うという目的だけのために2時間



# よりよい地域社会を築く

**末** 日聖徒の女性には自分が住んでいる社会を改善する能力と機会、責任があります。私たちは福音の教えを実践することにより、またよりよい地域社会作りにつながるささやかな行ないに着手することにより、このような務めを果たすことができます。中央扶助協会会長のイレイン・L・ジャック姉妹はこのように述べています。「皆さんは夫の支えとなり、子供たちを育て、親をいたわり、隣人を助け、学校で奉仕し、地域社会の集会に出席し、家の内外でこの世の務めを果たすときに、主に対する愛を示していることになるのです。」

## 教会の奉仕は 地域社会で奉仕するための備えとなる

私たちが教会で指導者として働くことは、社会で有能な働きをするための備えともなります。教会でいろいろなプログラムを企画したり、責任を委任したりすることを学ぶからです。また私たちは家族に対して自然に心を向けていますが、その思いは、自分たちが生活する地域社会をよりよいものにしようという思いへと拡大していくでしょう。

これまで扶助協会の姉妹たちは、地域社会の問題を認識し、解決することに関して立派な伝統を残してきました。扶助協会の姉妹たちは看護婦、助産婦、ときには医者としての訓練を受けました。飢えている人を助けるため、また種を調達するために、小麦を貯蔵したり購入したりしました。健康管理や衛



ILLUSTRATED BY DOUG BARLOW

生状態の改善のための「はえ退治」運動を計画したこともあります。アメリカ合衆国で婦人参政権を獲得するために活躍した時代もありました。政治家として立候補し、官職に就いた人もいます。

●私に関心を示すことにより、地域社会のどのような問題を改善することができるだろうか。

## 小さなことから始める

今日の姉妹たちも教育や社会奉仕、政治に関心を持っています。小さな努力であっても、私たちは地域社会に大きな影響を及ぼすことができます。

ノースカロライナ州チャペルヒルに住むマーサ・イズゲット姉妹は、彼女の8人の子供たちが通う学校でボランティアとして教える手伝いをしました。クラスの子供たちの勉強や活動を手伝っていると、与えられた課題を最後までやり遂げられない子供たちがいるのに気づきました。また、後片付けをきちんとする習慣がついていない子供もいました。マーサは作業の仕方を教えることにより、このような子供たちの

力になれると思いました。

マーサはこのように語っています。「家でも6人の息子とふたりの娘にこのようにしていましたから。みんなにそれぞれ仕事を割り当て、各自の日課を決めてやるのです。仕事を終えると、ご褒美をあげましたが、務めを果たすまでは遊ぶことを許しませんでした。今、子供たちは大きくなり、学校や職場、伝道地などで、もっと大切な責任を果たしています。これは責任を持つことを家で学んだおかげだと思います。」

マーサはP.T.A.の役員として学校や地域社会でも働きました。そして、子供たちが目標を達成するのを親はどのように助けたらよいかについて、自分の考えをほかの人々に話すことができました。今彼女は、学校で講師として働き、子供たちが良い習慣を身につけるのを助けています。「私は子供たちによく準備して学校へ来てほしいと思います。また、自分のやることに誇りを持ってほしいと願っています。親は、子供たちに与えられている割り当てに関心を持ち、家や学校で果たすべき務めをやり遂げるよう励ますことにより、家にも子供を助けることができます。」

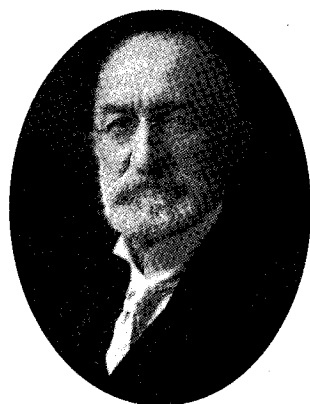
私たちは、自分の手に負えないほど地域社会に、深く関与する必要はありません。大切なのは、常にいろいろな問題に関心を持ち、いつでも協力できる態勢を整えておくことなのです。

●私は地域社会にあつてどんなことを行なっているだろうか。ほかにどのような貢献をすることができるだろうか。□

# ヒーバー・J・グラント

## なすべきことを回避しなかった人

レオン・R・ハートション



**人**生で自分が行なわないことに對してさまざまな言い訳をする人があります。ある人は働くことを嫌います。またある人は家族としての責任を回避します。過労、病氣、多忙、貧困、内気などを理由にほかの人を助けることができないと主張する人もいます。またある人は「もっと重要な」事柄に対してのみ自分の才能を用いたいと言います。なすべきことをだれかほかの人にさせて満足している人もいますし、愛や平和、奉仕について際限なく話すだけの人もいます。

第7代大管長ヒーバー・J・グラントはそのような人々とは対照的でした。ヒーバー・J・グラントはなすべき正当な理由が少しでもあれば、すぐそのことに取りかかりました。たとえ容易な仕事でなくても、良い結果をなんとかして引き出そうとして働きました。彼は不可能と思われることにも勇敢に取り組み、喜び勇んで前進し、試練に打ち勝とうとしたのです。ある物事を成し遂げるのに必要な生来の資質を備

えていないと思われたときでも、彼はその能力が伸びるまで練習し、そして祈るのでした。

### 自己訓練の価値

ヒーバー・J・グラントは物事を回避しない人でした。それが教会を財政危機から救うことであり、あるいはシオンの歌を上手に歌うことであり、決して回避しなかったのです。そのように彼は育て上げられました。ブリガム・ヤング大管長(子供のころヒーバーはヤング大管長の家庭で多くの時間を過ごした)とレイチェル・アイビンズ・グラント(ヒーバーの母親、夫に先立たれていた)には共通点がひとつありました。それは、ふたりがともに自己訓練の価値を知っていて、常に最善を尽くしていたことです。

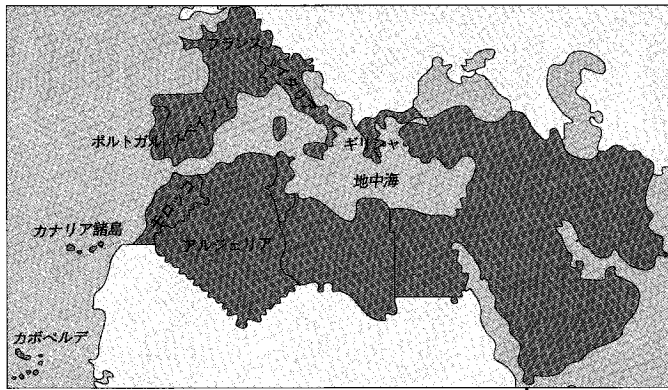
少年ヒーバーはこの心構えを受け継ぎ、それを完璧なまでに実践しました。

さらに彼は、「なそうと心に決めたことは、主の助けを得れば、何事でも成し遂げられないはずはない」という信念を持って成長しました。彼はよくラルフ・ウォールド・エマソン(1803-1882年、アメリカの随筆家、詩人)の次の言葉を引用しました。「あきらめず、努力すれば何でも簡単にできるようになる。それは、その物の性質に変化があったのではなく、私たちの力が増したからである。」(「大会報告」1901年4月、p.63に引用)そしてヒーバー・J・グラントは自分が説教した事柄をみずから実践しました。

ヒーバー・J・グラントは、長い時間をかけて投球練習をしたおかげで野球の最強チームの選手になれたことを好んで話しています。また、美しい字

伝道旅行中の若き使徒ヒーバー・J・グラント長老は「天上の会議のような光景を見た。」それは彼にとって、十二使徒としての召しを確認するものとなった。





ヨーロッパ地中海地域

から3時間、喜んでバスや電車で揺られてやって来る会員の中に、そのような信仰を感じます。

**ミュレン長老**——距離的な問題について私たちは、会員の住んでいる所に教会を組織することで、ある程度までは解決できると考えました。つまり、会員がまとまって住んでいる地域の近くに、比較的小さな支部をいくつも組織したのです。

**質問**——皆さんが目の当たりにしている教会員の霊的な強さは、どのような基盤の上に築かれているものなのでしょうか。

**ミュレン長老**——教会員の霊的な強さの基盤は、一人一人の持っている信仰です。霊的な事柄の中には、自分自身の努力で学び取らなければならないものがあります。私たちはそのような霊的成長を促す適切な環境を作ろうと努めてきました。また、できるかぎり個々の会員を励まし、鼓舞し、会員が福音に従った生活を通じてみずからの務めを悟れるようお手伝いしてきたつもりです。

**カーティス長老**——私たちは、いつも若い兄弟姉妹のことを考えており、ある目標を掲げています。それは、神殿に参入し、伝道に出たいという望みを最終的に彼らに持ってもらうようなさまざまな活動や経験を提供することです。若人の必要を満たすには、ありったけの知恵を絞らなければなりませんし、心から喜んで献身する指導者が必要です。なぜならこの年齢の兄弟姉妹の興味は千差万別で、なおかつ、教会までの交通に要する時間や費用が問題でなかなか活動に参加できないという人も多いからです。

**コンディー長老**——ヨーロッパ地中海地域の会員は、お互いに助け合って信仰を深めています。40パーセントの会員は独身で、その大半が住むフランスでは独身成人プログラムが盛んで、かなりの成功を収めています。おおぜいの兄弟姉妹がこぞって活動に参加しているのです。

教会幹部の訪問によって会員がどれほど信仰を強められるか、その度合いを数字で測るのは不可能ですが、大管長会のゴードン・B・ヒンクレイ副管長、十二使徒定

員会のM・ラッセル・バラード長老を迎えてスペインで地区大会を開いた時、スペイン全土から会員が集まりました。カナリア諸島のラスパルマスからも40人の会員が飛行機でやって来たほどです。この大会を通じて出席者は、すばらしい霊的高揚を経験したのでした。

**質問**——伝道活動にもかなり大きな影響を与えたのでしょうか。

**コンディー長老**——もちろんです。私たち地域会長会も、「すべての会員は宣教師である」というデビッド・O・マッケイ大管長の言葉を会員が忘れないよう、常に強調しています。

教会はいろいろな国で成長していますが、それぞれの国にいる教会の指導者の中には地域社会やビジネスの分野でも指導的な立場にある人たちがいて、教会の信頼を高めています。

**カーティス長老**——たとえば、ローマの地方部長とその姉妹はともに内科医ですし、ポルトガルのリスボンのステーキ部長は裁判所の判事です。またパリのあるステーキ部のステーキ部長は、大手の国際会計士会社の幹部です。

**ミュレン長老**——国内の会員数の多少に関係なく、福音の精神と会員相互の愛の精神には、目を見張るものがあります。モロッコのある会員は、ほかの地域の教会員と接することもない環境の中で、ある薬を必要としていました。この会員は、その薬をモロッコでは到底入手できないだろうと思い込んでいました。ところが、この薬を製造している製薬会社がモロッコのカサブランカにあり、しかも、この会社で幹部を務めている教会員がいるとわかったのです。やがてこの会員の働きで問題の薬は無事その兄弟の元に届けられました。これは、ふたつの家族の間で行なわれた福祉プログラムであり、会員間の相互援助の一例です。これこそ福音のすばらしさの表われと言えるでしょう。会員が何千人いても、またたとえ数人であっても、この福音は確かに機能するものなのです。□







が書けるようになるために努力を重ねて技量を磨いたと語っていますが、実際彼の肉筆は後にその美しさを高く評価されるようになりました。また、教会の賛美歌を歌うことはすばらしい礼拝の方法であると、説教壇から喜びをもって語りました。彼自身音楽についての天性の才能は持ち合わせていなかったようですが、大変な努力をして、多くの賛美歌を暗唱し正確に歌えるようになりました。

説教の中で彼は、仕事に精を出して生活力を高めるように人々を励ますのを好みました。そして善をなす力は各人の内にあることを力強く説き、このように言っています。「私たちはみずからの生活を築く建築家です。この世の生活だけでなく、永遠の将来にまで及ぶ生活を築くのです。神は私たちに戒めを守る力をお与えにならないでは、いかなる戒めもお与えになることはありません。」そして彼は、日常生活でこの力を最大限に伸ばす必要があると説いています。

### 力を尽くして働くことの大切さ

ヒーバー・ジェディー・グラントは1856年11月22日、ソルトレークシティでジェデダイア・M・グラント、レイチェル・アイビズ・グラント夫妻の間に生まれました。父親はヤング大管長の副管長でソルトレークシティの初代市長でしたが、ヒーバーが生まれて9日目に亡くなっています。しか

し大管長会のひとりが、グラント姉妹に「あなたの息子さんは成長してご主人よりもさらに偉大な使徒になるでしょう」という予言をしました。彼女は幼い息子に行儀よく従順であるように常に助言を与えました。それは彼に、人生でこの祝福に満ちた予言を成就するにふさわしい者になってもらうためでした。

彼は少年時代に、力を尽くして働くことがいかに大切であるかを学びました。父の死後、彼と母親は経済的な苦境に立たされ、やがて美しい家を引き払って、粗末な小屋に移り住むことを余儀なくされました。教会からの経済援助を受けることを拒んだグラント姉妹は、自分と息子の生活を支えるために裁縫の仕事に就きました。幼いヒーバーも使い走りをしたり、母親が疲れた時にミシンの足踏みペダルを踏んだりして彼女を助けました。

後にヒーバーはある保険会社のメッセンジャーボーイとして働き始めました。学ぶことに対する強い意欲とみずから進んで熱心に働く姿勢によって、彼はわずか34歳でユタ州立銀行の頭取になりました。ヒーバー・J・グラントは小さなことにまで正直な人として、教会内外の人々から尊敬されるようになりました。生涯を通じて、彼は多くの事業を手がけ豊かな者となりました。

### 惜しみなく与える人

しかしながら、ヒーバーは富に執着

するようなことはありませんでした。むしろ自分の富を、人々を助け教会や地域社会を支援するための手段であると考えていました。そして自分や寡婦であった母親が耐え忍んだ苦難を忘れずに、寡婦とその家族に惜しみなく分け与えました。さらに、宣教師を援助するための基金を設けたり、事業を起こして多くの人に職を与え自分の住む地域社会を経済的にも文化的にも発展させたりしました。また教会の大管長としても、教会保全計画(後に教会福祉プログラムと改称)を立案し、その計画を開始するために惜しみなく財産を寄付しました。

ヒーバーがそれほどまでに財産を惜しまなかったのは、同胞に対する愛と主の約束に対する信仰の故でした。彼がまだ青年だったころのことです。教会の集会に出席すると、監督が献金を募っていました。集会の後、彼は監督に50ドルを手渡しました。監督は45ドルをヒーバーに返して、彼の分としては5ドルでじゅうぶんだと言いました。ヒーバーは50ドル全部を監督に渡してこのように言いました。「『ウーリー監督、あなたはきょう主は4倍もの報いを与えてくださると説教されたでしょう。私の母は父に先立たれており、今200ドルを必要としているのです。』すると監督は『ヒーバー。君はもし私が残りの45ドルを受け取れば、すぐに200ドルが手に入ると信じているのかね』と尋ねてきました。私は『そのとおりです』と答えました。こうして監



1901年8月、グラント長老は本部を東京に置く  
日本伝道部を開設してこれを管理した。

1902年3月、彼は東京湾で最初の改宗者中沢はじめにバプテスマを施した。

督はお金を受け取ってくれました。」  
その集会から帰る途中、彼にひとつの  
考えが浮かびました。そして、面識の  
ないある男性に電報を打って、商取引  
を結んだ結果、218ドル50セントの利  
益が得られました。翌日彼は監督のと  
ころに行ってこう言いました。「先日  
50ドルの献金をした後で、私は218ド  
ル50セントを稼ぎました。それで私は  
什分の一として21ドル85セント納め  
なければなりません。となると、私は21  
ドル85セントと18ドル50セントの差額  
も工面してこなければなりませんね。  
主は4倍の収入に加えて什分の一の全  
額まではお与えになりませんでしたか  
ら。」

#### 言葉よりも心

ヒーバー・J・グラントは自分自身  
に対して非常に厳しく、卓越した成果  
を求めており、力を尽くして働きました  
が、ほかの人が不完全であるからと  
いって批判するような人ではありません  
でした。彼がまだ若かったある日の  
ことです。教会の集会である話者が、  
冒頭でいくつかの文法的誤りのある話  
し方をしました。それを聞いてヒーバ  
ーは学校の授業のために実例をたくさ  
ん得られるに違いないと思いました。  
学校で、訂正を必要とする文法的誤り  
のある例文を持ってくるようにという  
宿題が出されていたのです。彼は誤り

に聞き耳を立てながら、書き留め始め  
ました。ところが誤りを耳にする代わ  
りに、彼はその男性の語る言葉に、主  
のみたまを感じ始めました。そして救  
い主の神性とジョセフ・スミスの使命、  
主のみ業について証が述べられると、  
ヒーバーの目に涙が込み上げてきました。

「この経験をして以来、私は福音を  
説く人が文法上の誤りをしたり、発音  
を間違えたとしても、気にしたり、そ  
れにいらだちを感じたりすることは決  
してなくなりました」とヒーバー・  
J・グラントは後に語っています。  
「それはちょうど言葉という外観で人  
を裁くようなものであると気づいたの  
です。あの日から今日に至るまで、ほ  
かのあらゆることに勝って私に感銘を  
与えてきたのはみたまです。それは、  
人が福音を宣言するときに受ける、生  
ける神の靈感です。言葉が感銘を与  
えるのではないのです。なぜなら、結  
局のところ、生計を立てるのがやっ  
とで、魅力的な物事で自分を装うだけ  
の余裕にまったく恵まれなかった人は  
たくさんいるからです。あの日から今  
日に至るまで、私は人々をその霊性  
によって判断するように努め、それ  
に成功してきました。」

#### 「私の嘆願に対する直接の答え」

ヒーバー・J・グラントは人として  
の成長とともに、神に対する信仰も成  
熟させていきました。彼の最初の妻で  
あるルーシー・ストリンガムが重い病



気に伏せていた時、彼は子供たちを病室に呼んで、彼女がこの世を去ろうとしていることを告げました。娘のルーディーは彼に、母親のために神権を行使して彼女を死なせないようにしてほしいと嘆願しました。子供たちが病室を去ると、グラント長老は妻のベッドのわきにひざまずきました。その時の祈りについて彼は後に次のように語っています。

「私は主と語り、生にも死にも、喜びや悲しみ、さらに繁栄や逆境にも主のみ手があることを認めました。私は妻が死のうとしていることについて不平を言いませんでした。しかし、私には、自分の妻がこの世を去るのを見据えるだけの強さがなく、しかもそれが福音の儀式に対する子供たちの信仰に影響するのを恐れていました。そこで私は主に嘆願して、娘のルーディーに母親が死ぬのは主のみこころであるという証<sup>あかし</sup>を与えてくださるようお願いしました。ほんの数時間のうちに、妻は息を引き取りました。私は子供たちを病室に呼ぶと、母親の死を告げました。幼い息子のヒーバーは激しく泣き始めました。するとルーディーが彼を抱いてキスをし、こう言ったのです。『もう泣かないで。「お母さんが死んだのは主のみこころです」ってさっき主の声が聞えたのよ。』ルーディーは私の祈りについては何も知りませんでした。彼女に対する主のこの言葉は、私の嘆願に対する直接の答えでもありました。以来、このことに対し、いつも心から

感謝してきました。』

ヒーバー・J・グラントは生涯、家族と親密な関係を保ちました。教会が多妻結婚を実施していた時代に生きていた彼は、その後ふたりの妻ハルダ・オーガスタ・ウインターズ、エミリー・ウエルズと結婚し、全部で12人の子供をもうけました。家から離れて暮らしていたある娘は次のように語っています。「父は非常に筆まめな人でした。もし私が父と同じくらい早く返事を書いていたら、私たちはお互いに週に2度ずつ手紙を書くことになったでしょう。父の手紙はいつも次のような同じ書き出しでした。『今は夜中の2時(ときには3時のこともありました)ですが、寝つけません。そこでかわいい娘に、ちょっと手紙を書いてみようと思いました。』父が亡くなった後、私がこのような手紙をもらえなくなってどんなに寂しかったことでしょうか。』

#### 主のみ手に使われて

ヒーバー・J・グラントは23歳でステーク部長に召され、25歳で十二使徒定員会の一員に召されました。その1年後には、アメリカインディアンへの伝道にも召されました。彼が帰還した時、教会は彼の事業の才能に助けられて、1890年代の経済危機の中にあっても財政的な破綻<sup>はたん</sup>を免れました。しかし彼自身は大きな損失を被りました。

1901年、彼は日本に伝道部を創設し、それを管理するように召されました。

出発に先立って準備をし、諸事を整えるために1年の期間を与えられました。その時、ヒーバーはまだ経済的痛手から立ち直ろうとしている最中でした。彼が召しを受けた集会の後で、同僚である十二使徒のひとり、もし大管長がヒーバーの経済的な困難を知っていたなら、決してその召しを与えなかつたろうと言いました。グラント長老はその言葉にうなずきました。しかしその瞬間、彼の心は自分を完全に主のみ手にゆだねようという思いに満たされたのでした。以来、毎朝彼は次のように祈りました。「負債から抜け出せるよう、きょうも私になすべきことを行なう力をお与えください。」その年のうちにすべての負債が返済されました。彼は負債を完全に返済したばかりでなく、伝道地で生活するのにじゅうぶんな資力まで得ることができました。

2年後彼が帰還するとすぐ、ヨーロッパ伝道部長としてもう2年間働くように召されました。その後、現在の教会機関誌の前身である「インブループメント・エラ」の発行にも尽力しました。

1918年、ヒーバー・J・グラントは62歳で教会の大管長となりました。彼はほぼ27年間その職にありましたが、それは歴代大管長の中で2番目に長い在任期間となっています。まさに有能で恐れを知らない指導者が必要とされた時代でした。教会員はふたつの大戦を通じて彼らを導き強めてくれる強力な指導者を必要としていたのです。そ



Grant 大管長は、福音を宣べ伝えるために新しい技術が利用できると考えた。

1922年5月に彼は教会初の放送局を奉獻し、

2年後ソルトレークタバナクルから総大会のラジオ放送を開始した。

彼はまた、合衆国が大恐慌として知られる経済危機に直面した時代(1929年から1930年代)であると同時に、全世界にわたって教会が急速に成長した時代でもありました。彼は聖徒に自分の収入の範囲内で生活し、熱心に働くこと、互いに愛し仕え合うこと、正直に什分の一を納めること、知恵の言葉を忠実に守ることを教えました。彼は教会にセミナー、インスティテュートのプログラムを導入しました。また教会福祉プログラムの確立を通じて、教会員に自立するように、また自分の家族を扶養し、困っている人に手を差し伸べるように教えました。

Grant 大管長はまた、外部の人々

の教会に対する尊敬の念を大いに高めました。彼は1922年に教会初のラジオ放送で話をしました。1930年には、教会の100周年祭を管理しました。1937年にはヨーロッパに赴き、(予言者の召しにある間にヨーロッパを訪問した大管長は彼がふたり目だった)イギリスでの教会の100周年祭に出席しました。また、タバナクル合唱団が国家的な行事で歌うのを引き受けるように勧めたり、政府や地域社会、実業団との談話の機会を持って、教会に対する誤解を払拭するのに寄与したりしました。このように、彼は努めて、人々と良い関係を築き、教会に好意的な多くの友人を増やしていきました。

### 「使徒としてふさわしく」

生涯を通じて、ヒーバー・J・Grant は主が自分の強さの源であることを認めていました。彼は25歳の若きで十二使徒に召されたのですが、その際、自分はその召しにふさわしく、備えができていないか不安になり、4カ月間苦しみ抜きました。しかしアリゾナにあるナバホインディアンの保留地へ伝道旅行をしている間に、この若き使徒は彼の疑念を永遠にぬぐい去る忘れがたい経験をしました。

彼はひとりで馬に乗っていた時の出来事を次のように後述しています。「私は人生で最も真正な事柄のひとつと言えるものを見聞きました。それは、天上の会議のようであった。そこで語り合う声が聞こえた。私はその会議の様子にじっと耳を澄ました。……その会議には救い主も出席しておられた。また、私の父や予言者ジョセフ・スミスもいた。」若きヒーバーは、十二使徒定員会の空席を満たす必要があることについて、その会議で討議されているのを聞きました。彼は続けてこう語っています。「予言者ジョセフ・スミスと父の提議によって私が召されることになった。私はそこに腰を下ろし、喜びの涙を流した。私を推薦する理由として、私がそのような高い地位に就くにふさわしい事柄を行なったからというのではない。ただ清く正しい生活を送ってきたためだという。……私の父と、予言者ジョセフ・スミスは、私



がこの地位に就くよう望んだ。私が召されたのは私自身の行ないや偉業によるものではなく、予言者と私の父の働きかけによるものであることがわかった。また、予言者と父の務めは私を推薦することであり、残りの私の人生を成功に導くか失敗に終わらせるかは私の責任であることも告げられた。……

あの日以来、私は自分が使徒としてふさわしくないということで日夜悩むことも心配することもなくなった。また、ジョセフ・F・スミス大管長(グラント大管長は、ジョセフ・F・スミス大管長の後を継いで大管長となった)から言われた最後の言葉が私の大きな支えとなってきた。『主はあなたを祝福し、大いなる責任を与えられた。これは主のみ業であり、人の業ではないことを、いつも忘れないでほしい。主は何人にも勝って偉大なお方である。主は、教会の導き手としてみこころにかなう人物はだれかをよく承知しておられる。主は決して間違いを犯されない。主はあなたを祝福しておられる。』(「大会報告」1941年4月, pp. 4-5)

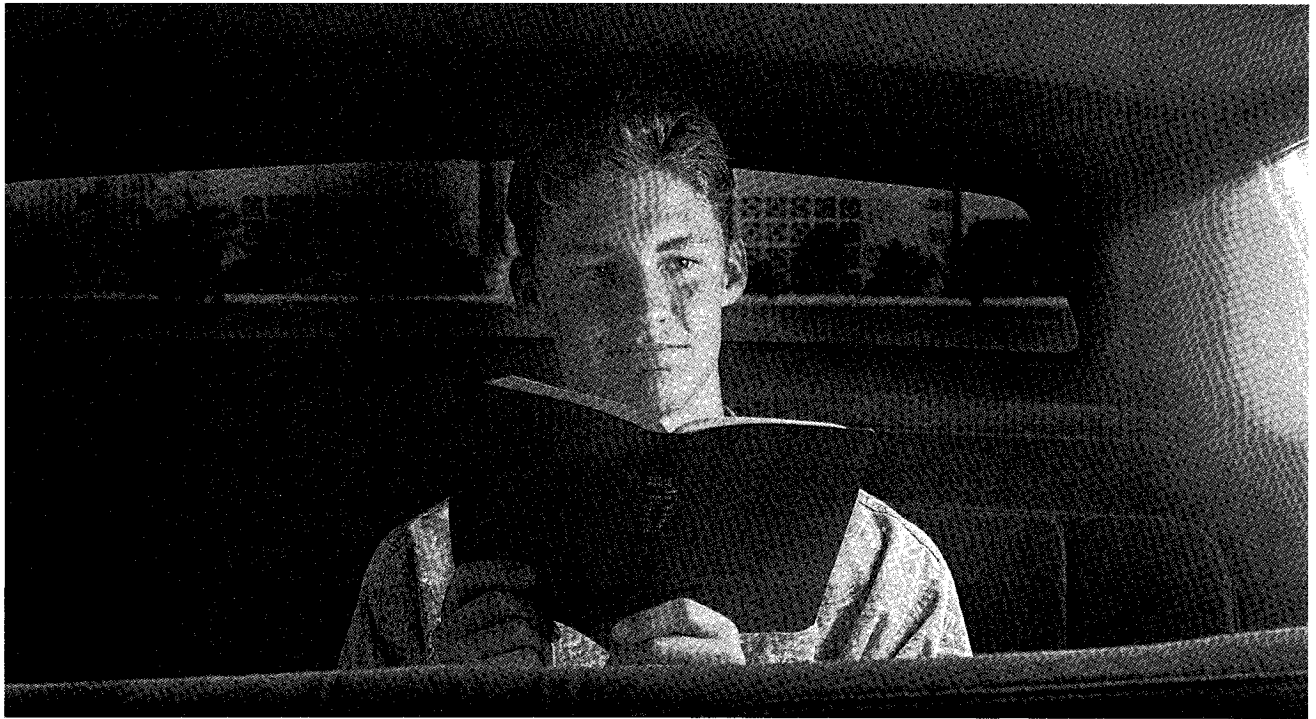
ヒーバー・J・グラントはこのような人でした。すなわち挑戦することを恐れぬ人であり、新たな状況に柔軟に適応する勇気を備えた人でした。また、救い主イエス・キリストに偉大な信仰を持った人であり、いかなる代償を支払おうとも正義を固く守り、決して物事を回避しない人でした。□

## ヒーバー・J・グラント年表 1856—1945

年	年齢	出来事
1856		11月22日 ソルトレークシティで生まれる。 生後わずか9日のヒーバーを残して父親が死去。
1871	15	銀行員として働き、実業界での第一歩を踏み出す。
1875	19	最初のワード部YMMIA(後の若い男性)管理会副会長となる。
1877	20	ルーシー・ストリングムと結婚。
1880	23	ユタ州トゥーエルステーク部長となる。
1882	25	十二使徒定員会会員に聖任される。
1883—84	26—28	アメリカンインディアンに伝道する。
1897	41	YMMIA中央管理会長の一員になる。彼が創設に寄与した「インブループメント・エラ」の業務部長に任命される。
1901—03	45—47	日本伝道部を組織し管理する。
1903—05	47—50	ヨーロッパ伝道部長として働く。
1918	62	大管長となる。
1919	63	ハワイ神殿を献堂する。教会員数50万となる。
1923	67	アルバータ神殿(カナダ)を献堂する。 総大会の初めてのラジオ放送で話す。
1927	71	アリゾナ神殿を献堂する。
1936	80	教会保全計画(後の教会福祉プログラム)を創設する。
1937	81	ヨーロッパの聖徒および宣教師たちを訪問。
1945	88	5月14日ソルトレークシティにて死去。

### 参考文献

1. ブライアント・S・ヒンクレー「ヒーバー・J・グラント——偉大な指導者の生涯におけるおもな出来事」
2. フランシス・M・ギボンズ「ヒーバー・J・グラント——神の予言者、鋼のごとき人物」
3. ロナルド・W・ウォーカー「ヒーバー・J・グラント」「教会の大管長」レオナルド・J・アーリントン編
4. 「ヒーバー・J・グラント」「モルモンニズム百科辞典」pp.564—568



PHOTOGRAPH BY CRAIG DIMOND

## ひとりだけの場所

ジョージ・ディクソン

そもそも、事の起こりは、ある夏の晩にまでさかのぼります。親友テリーの話がきっかけでした。

ぼくより少し年上のテリーは、先に伝道に出ようとしていました。ぼくはテリーの口から伝道の話聞きながら、不意に思いました。「次は、すぐにぼくの番だ。」

ぼくはいつも活発に教会に通っていましたが、従順でした。それでもこんな思いがいなずまのようにぼくの胸をよぎったのです。「おまえは自分が善良だと思っている。だが、証はどれほど強いんだ？」

どうすればいいのでしょうか。ぼくはモルモン経を読まなければならないことに気づきました。それには静かな場所が必要です。ぼくは6人兄弟の長男ですが、小さな我が家は騒がしすぎました。でも、ジョセフ・スミスのような人目につかない聖なる森は近くにありません。まず考えるべきことは、騒音から逃れてひとりになれる場所を探すことでした。

数年前、父は中古のリムジンを買い求めました。家族が増えて、大きな車が必要になったからです。そのリムジンがしばらくすると動かなくなってしまう、裏庭にあるバスケットゴールの下にずっと止めてありました。この車の中だけが、だれにもじゃまされず、ひとり静かにモルモン経を読める場所だと思ったのです。

どの箇所を読んでいた時だったか忘れましたが、とてもよい気持ちになりました。胸が熱くなり、涙がほおを伝いました。ぼくには珍らしい経験です。本を読んで泣くなんて、以前は想像もできませんでした。天父が答えを与えてくださったと知って、ぼくは言いようのない平安と確信を得ました。もはや疑いの気持ちはありません。モルモン経が神のみ言葉であることを知ったのです。こうしてぼくは、伝道に出る準備ができたのを知りました。

□





PHOTOGRAPH BY FPG INTERNATIONAL

# 韓国, 美しい朝の国

福音のみ業と伝統的な価値観の均衡を保ちながら、  
韓国の聖徒たちは霊的な平安を見いだしています。

ケリー・リックス・アダムズ

ソウルの下町のコンクリートの割れ目から、あるいはビロードのような韓国の深い緑の山々で、国花がその名に違わぬ美しい姿を見せています。無窮花と呼ばれるこの不屈の花は「永遠の花」という意味があって、花びらがしおれるや薫り高い新しい花びらが顔を出し、ほとんど一年じゅうその美しさを楽しませてくれます。

韓国人々は、この花の凛とした強い生命力を大いに評価し、同じように凛とした決意を示した先祖たちの物語を好んで語ります。韓国人々は、何世紀にもわたってその国境と信念を守り抜くために苦闘し、さまざまな時代に隣接の国々の統治下に置かれながら、国家としてはそれらの国々とは異なる独自性をはぐくんできました。

「私たちは子供の時から先祖について教えられます」と、熱心な教会員で3人の子供の母親であるチェ・ミヨン姉妹(40歳)は述懐します。「忠誠心と断固とした決心について教えられるのです。そして韓国人の真の姿、あるがままの状態に自信を持つように言われてきました。」

その強い決意は、福音がこの肥よくな韓国の地に根を張り、成長する助けになったことは間違いありません。最初の韓国人の改宗者たちは、朝鮮戦争で駐留していた末日聖徒のアメリカ軍人によって1950年代の初めにバプテスマを受けました。それが今日では、韓国の会員数は6万人規模に近づき、14のステーク部とひとつの神殿の祝福を受けるまでに成長しました。

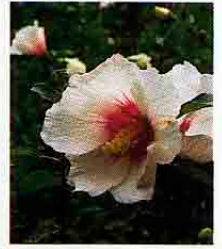
## .....バランスを見いだす.....

韓国ではキリスト教は目新しい宗教ではありません。国の主要な宗教はやはり仏教です。それでも、4,200万人の国民の3分の1以上がキリスト教の信者だと言われて

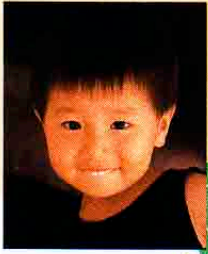


金色に輝く韓国のソウル(左)。下——  
民族衣装を身につけたコ・ウォンヨン  
兄弟と奥さんのキム・ウンヒ姉妹。こ  
のような衣装は今でも特別な行事の  
ときに着る。右——伝統的な手仕事  
をする村人。右下——国じゅうに  
咲き誇る無窮花の花。

PHOTOGRAPHY BY KELLENE RICKS ADAMS







ソウル

## 大韓民国

クワンジュ  
光州

プサン  
釜山

左——ほほえむ小さな子供。華やかな民族衣装で伝統的な村の踊りを楽しむ若者。右——豊かに実った稲を刈り取る人々。

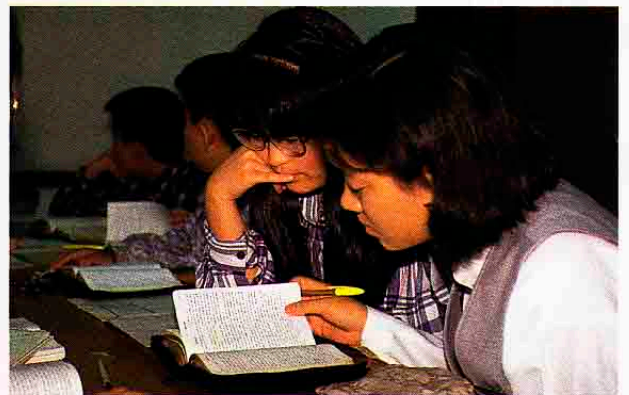
います。しかし、この数十年の間に大変な混乱を経験したこの国で、末日聖徒として生きるのは決して楽なことではありません。

「数年前から政治的にも経済的にも大きな変化がありました」とチェ姉妹は言います。数百年前に「美しい朝の国」と名づけられた韓国は、喧噪に満ちた近代的成長と何世紀にも及ぶ伝統のはざまで、穏やかなバランスを見いだそうと努力してきました。

チェ姉妹とご主人のチェ・ソクク兄弟は、子供たちを福音に根ざして育てようと決意している多くの改宗者1世の典型です。「私たちは聖典を学び、ともに祈っています。そして、模範によって平安と安定がどこにあるかがおのずとわかるように、私たちの価値観と優先順位を子供たちに教えようと努力しています。」チェ姉妹はそう語ります。

「子供たちには神と真理を知り、答えがどこにあるかを知ってほしいと思います」とチェ兄弟も同調します。

心臓病専門医のチェ兄弟は、朝6時に家を出て、夜は9時か10時に帰宅し、週6日働いています。目まぐるし



上——チョ・ジュンヒョン兄弟と奥さんのイ・ヒョンア姉妹はともに帰還宣教師で、家族とスンジョン村に住んでいる。下——聖典の勉強をするセミナーの生徒たち。





く動く韓国の経済・工業社会は、労働者にかかなりの時間的拘束を要求し、このような長時間労働は珍しくはありません。それでも、チェ兄弟は週2日は少し早めに帰宅するようにしています。月曜日は家庭の夕べのため、そして木曜日は韓国ソウル神殿で神殿奉仕者としての召しを果たすためです。

「確かに私たちは家族と教会のために犠牲を払っています」とチェ兄弟は認めます。「しかし、私たちが愛し、大切に思っているものへの犠牲です。家族と教会こそ、私たちに平安をもたらしてくれるものなのです。」

### 永遠の価値にすぎなくて

近代的でにぎやかな都会に住んでいても、のどかな山間の村に住んでいても、教会員は福音のもたらす平安と導きの祝福にあずかることができます。朝鮮半島の中ほどにあるヨンサン村には、チョン・ヨンジュン兄弟と奥さんのイム・インソク姉妹が、チェ家族と同じ価値観と原則で4人の息子を育てていますが、その環境には大きな違いがあります。釜山に住んでいたふたりは、家族でもっとゆっくりした時間を過ごしたいと、この村に引越して来たのです。イム姉妹は幼稚園を経営し、チョン兄弟は著作活動を行なっています。(韓国では既婚女性の多くが独身時代の姓を名乗ります)

チョン家族は最近自分たちの新しい才能を発見しまし

た。自分の子供たちに読み聞かせていた「ソンドエボ」(韓国語版教会機関誌。「聖徒の友」の意味)の記事を朗読して、最近チョン兄弟は全国朗読コンテストに優勝したのです。今ではチョン兄弟姉妹は、午後になるとメーキャップを施してコスチュームで身を固め、小さな子供たちに「道徳的教訓」を織り交ぜた話を朗読することが多くなりました。

コンテストに優勝したことで、チョン家族は報道機関の脚光を浴びることになりました。数え切れないほどのテレビ番組や新聞記事がチョン家族について紹介したのです。そのほとんど全部が、まずチョン家族の一致と献身について言及するところから話を始めるのでした。「取材に訪れた人たちは一様に驚いていました。でも、私たちは単に福音の原則に従って生活しているにすぎないのです」と姉妹は語ります。

数年前の韓国であれば、チョン家族のような家族は珍しくなかったはずですが。韓国の文化は家族の伝統に根ざしたものでした。しかし、世界の潮流に遅れまいとしている国は多かれ少なかれどこもそうであるように、韓国でも企業や経済の活動が永遠の価値を影の薄いものにしていきます。

### 「生活を変えるもの」

クワンジュ

光州のプンハンワード部で監督を務めるチョ・ヨ



ンヒョン兄弟にとって、福音の原則に従って生きる決意は、競争の激しい企業社会でも有利な要素になってきました。

大学卒業後、チョ監督は韓国有数の石油会社で化学技術者として働こうと、就職活動をしていました。採用の選考過程のひとつに会社の役員全員との面接がありました。その時の状況をチョ兄弟はこう説明します。「役員がずらりと私の前に並び、矢継ぎ早に質問してきました。」

質問のひとつは、会社の責任と比較して家族をどう考えているか、というものでした。「彼らは会社の責任を優先させる、という答えを予想していたと思います。しかし、私はためらわずに、どんな成功も家庭における失敗を償うことはできないと言ったのです。役員たちはこの答えに驚き、同時に感動しました。私は予言者の言葉を分かち合っただけなのですが。」

チョ監督は採用されました。が、それから5カ月後に教会教育部で教えるよう勧められました。収入が3分の1になるにもかかわらず転職して、現在は韓国の西南に位置し、故郷に近い光州で教えています。

「小さい時から教師になりたいと思っていました」とチョ兄弟は述懐します。「でも、教えたいたいの、数学や歴史ではなかったんです。何か生活を変えるものを教えたいと思いました。その夢がかなったんです。」

韓国じゅうのセミナーやインスティテュートの多くの生徒たちが、チョ監督の影響によってその生活を変えています。この国ではセミナーやインスティテュートが次第に強化されています。それというのも、地域の教会指導者たちが現在の青少年は明日の指導者であり、平安と幸福をもたらすものが何であるかを自分自身で知る必要があると認識しているからにほかならないのです。

イ・ギョンヒ姉妹はソウルにあるソチョワード部に集い、早朝セミナーの教師の責任を受けています。宣教師の経験から、若い時に福音に根ざした優先順位を確立



上——ソ・ジンオ兄弟と両親。彼が死を乗り越えたのは、教会員たちが愛と信仰をもって手を差し伸べた結果である。下——韓国ソウル神殿の敷地内でくつろぐ若い家族。

することがどれほど大切かをよく認識しています。

「子供たちからたくさん学ぶことがあります。子供たちのためにレッスンを準備するときに、福音を詳しく学び、自分の証<sup>あかし</sup>を強めることができます。セミナーを教えることで天父に仕える機会が得られますし、生徒たちと証や自分の生活体験を分かち合うことができます。そして天父に奉仕しているかぎり、いつも祝福をいただくことができるのです。」

イ姉妹の早朝セミナーのクラスで、生徒たちは霊的な教を現在の生活に応用することを学んでいます。「アルマとモーサヤの息子たちの伝道について読むのが大好きです」と生徒のひとりと言います。「彼らの経験と勇気に教えられることがたくさんあります。今初めて、友達との交際と信仰との間に問題を感じていますが、聖典を読み、集会に出席して正しい決断をするときに、主からの力を感じることができます。」

韓国には非常に厳しい受験戦争があります。小学校時代はさらに上の学校への入学試験に備える時期でもあり、授業も含めて1日に10時間から12時間勉強するのは珍しくありません。教会の活動のために勉強の時間が削られ

ると、問題の生じることがあり、特に家族で本人だけが教会員の場合、周囲の理解を得るのがむずかしいことがあります。

### 従順によって祝福を受ける

釜山に住むある若い会員も、そのジレンマを経験しました。母親から教会の出席を禁じられた10代のこの姉妹は、いつか母の気持ちが変わることを信じて、従順に祈り、聖典を読み続けました。

「私は自分にとって何が大切であるか知っていますし、できることを従順に行ない続けるならば、主が祝福してくださると知っています」と彼女は率直に話してくれます。

ソウルのシンダンワード部所属のハン・サンイク兄弟は、従順によって豊かな祝福を受けたという証を持っています。ハン兄弟の生活設計は当初の計画どおりには進みませんでした。彼は「現在の私は、かつて想像もできなかったような幸福を味わっています」と言います。

大学の演劇科に籍を置き、将来は俳優になって演劇を教えたいという夢を抱いていたハン兄弟は、ソウルにあるインスティテュートの学生協会の会長に選出されました。「それまでの委員長は皆伝道に出ていました。私が伝道に出るべきか否か真剣に考え始めたのは、その時でした。」

ハン兄弟は17歳でバプテスマを受け、家庭ではただひとりの会員で、家族への責任について悩んでいました。父親はすでに亡くなり、長男として母親の面倒をみる責任があったからです。「母は私が卒業し、結婚して、自分の世話をしてくれることを心から望んでいました。それが昔からの習わしなのです。」

しかし、ハン兄弟は卒業と同時に母親の世話を手配し、26歳で専任宣教師として伝道に出たのです。「もちろんそれは正しい決断でした」とハン兄弟は言います。「母も祝福を受け、私自身も正しい決断を下す生活態度を確立できたからです。」

ハン兄弟がモルモン経について大切な教訓を得たのも伝道中のことでした。「宣教師は、まずモルモン経とジョセフ・スミスの物語を教えるように指示されていました。私は初めにそのふたつを理解し受け入れるのはむずかしいと考え、求道者をもっとゆっくり福音の原則を受け入れる方がよいと感じていました。」

しかし、この方法に対する求道者からの反応は芳しくなく、すぐにハン兄弟は頭を悩ますようになりました。断食して祈った後、「答えを受けました。まずモルモン経を教えなければならないということが、はっきりわかったのです。そして、自分が、人の心に影響を及ぼし、態度を変えてくださるみたまに頼っていなかったのだとわかりました。驚いたことに、私が従順になると、以前あれほどむずかしいと思っていた福音の原則や概念を求道者が受け入れてくれたのです。」

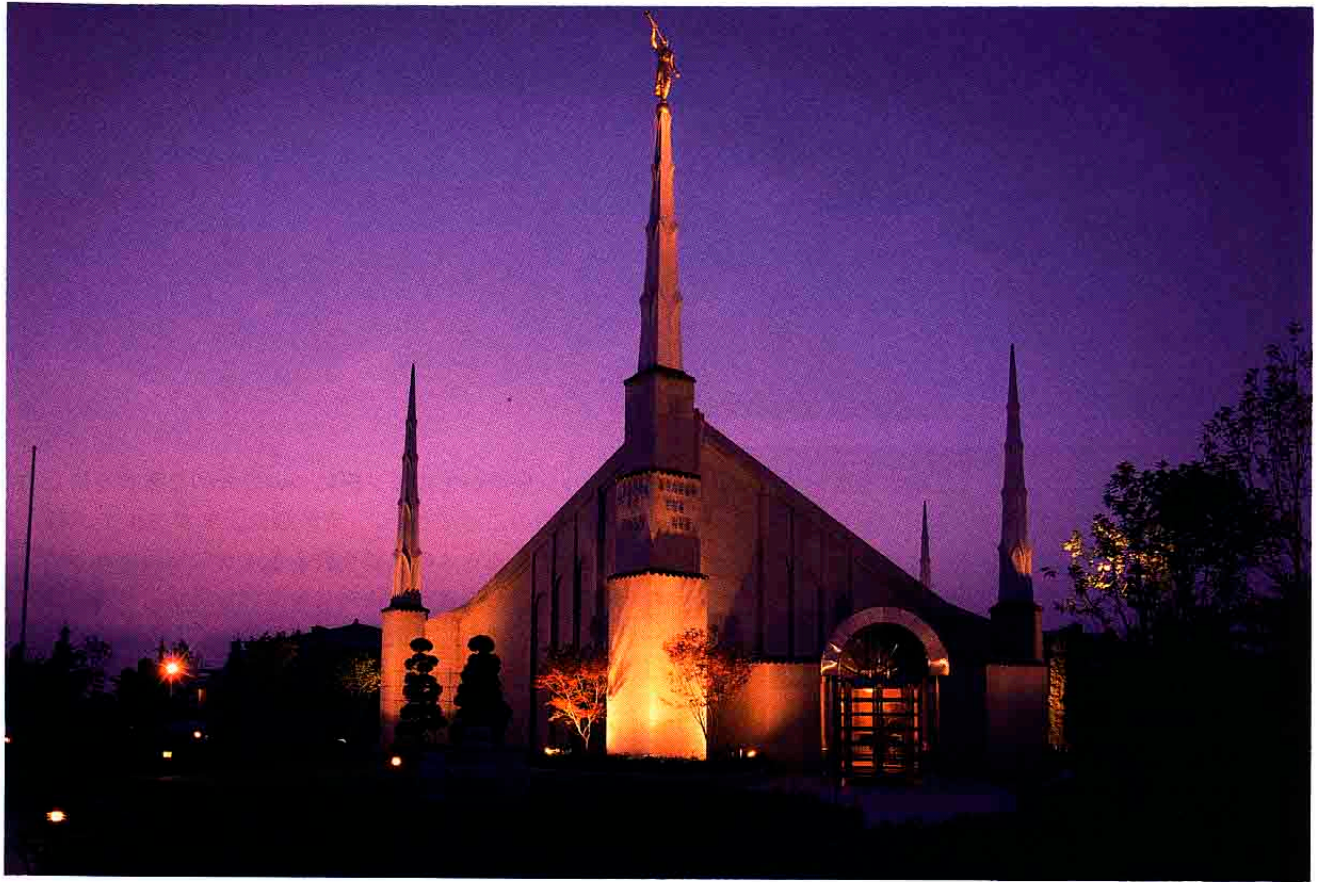
ほかの国では26歳の宣教師は珍しいかもしれませんが、韓国ではほとんどの宣教師がそのくらいの年齢で伝道に出ます。2年半の兵役義務と厳格な教育制度のために、韓国の男性は兵役を終え、大学を卒業するのを待って伝道に出ることが多いからです。韓国では、男性にとっても女性にとっても、伝道に出ることが一般的になりつつあります。現在韓国には4つの伝道部があり、宣教師の25パーセント以上が地元出身者で占められています。

もちろん、自国の宣教師から福音を学ぶことにはある種の利点があります。宣教師は求道者に、韓国文化と福音の原則をどう融合させるか個人的な経験を話すことができます。このような個人的な証は、バプテスマによって生活を大きく変えなければならない新会員にとって効果的な助けになります。

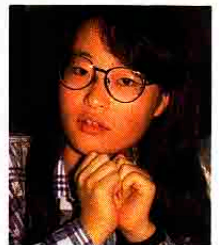
### 永遠に価値あるものを知る

韓国人教会員、特にビジネスの世界にある人々が直面する大きなチャレンジのひとつは、知恵の言葉を守ることです。「ここでは飲酒と喫煙は生活の一部です。特にビジネスや社交の場では……」とドンチョン支部のチ





韓国の人々は、ソウル神殿の美しさと力強さに、  
霊的な励みを感じ取っている(上)。右——神殿の  
敷地を訪れた若い母親と子供。右端——緑濃い韓  
国の農村地帯を鮮やかに彩る花。教師の言葉に熱  
心に耳を傾けるセミナリーの生徒。



ユ・トクヨン兄弟は言います。「勤務時間が終わると、男性は社交のために一緒にお酒を飲みに出かけます。これは、以前から仕事の一部として受け入れられてきた慣習です。

しかし、韓国の教会員には、仕事の後教会の責任を果たしたり、家族のために過ごしたりする時間が必要なのです。知恵の言葉が私たちの健康に関連した永遠の原則であることや、家族の結びつきが永遠であることを個人的知識として持ち合わせていなければ、ビジネスの世界で自分だけ成功から取り残されているように思えて焦る気持ちも生じてきます。すべての会員は何が永遠に価値のあるものかを知らなければなりません。」

チュ兄弟はこの件に関しては権威と言えるかもしれません。彼は商務省の長官を務め、教会員としては韓国政府の最高地位にいます。同僚たちは、チュ兄弟の標準を尊敬し、うらやむようにさえなってきたといいます。

「福音は、勤勉で正直で良心的になるように教えてくれます」とチュ兄弟は説明します。「それ以上に大切なのは、福音は親切であるように教えていることです。韓国人は人の生活にあまり干渉しない国民で、親類でもなければ相手の生活に踏み込むことはあまりありません。ですから、頼まれもしないのにだれかを助けると、相手は驚くことが多いのです。しかし、こちらの誠意と真心は、すぐに感じ取ってもらえます。」

こうした小さな親切でも、受ける側の人生が変わることもあります。羅州に住む16歳のソ・ジンオ兄弟が今日生きていられるのは、家族や多くの福音を通じて得た友人たちの信仰と愛のおかげです。

事件が起きた時、学校の休み時間でジンオは勉強していました。突然ひとりの同級生が怒り狂って、棍棒で彼に殴りかかってきたのです。ふらふらになりながら教室の後ろまで逃げ、ジンオはそこで意識を失って倒れてしまいました。

ソ家族にとって、その後の13日間は昼夜を問わぬ看護に明け暮れ、何度も祝福し、祈りを捧げる日々でした。夏のうだるような暑さにもかかわらず、病院にはクーラーがなくて、看護婦の数もわずかでした。ジンオの両親のソ・ヨンウォン兄弟とキム・ギョンジャ姉妹は、その暑さの中で、息子の体温を下げるために、熱を持った体に昼夜冷たいタオルを当て続けなければならなかったのです。

「いつもそばには宣教師か会員がついていてくれました」とソ兄弟はその時のことを思い出して語ってくれます。会員たちは、ジンオの疲れ切った両親が少しでも休めるように、病院まで足を運んでくれたのです。ジンオの名前はソウル神殿の祈りの名簿にも載せられ、光州ステーキ部全体の会員たちが特別に断食しました。

「医師や看護婦たちは、私たちに息子の死を受け入れる心の準備をさせようとしていました」とキム姉妹は言います。「でも、私たちは望みを捨てませんでした。信仰があったからです。」

2回の手術を経て、ジンオはこん睡から目覚めました。そして、医師の予想に反して、脳の損傷もほかの後遺症もまったく認められなかったのです。

「私たち家族にとって感情的には非常につらい時期でした」とキム姉妹は言います。「でも、この経験を通して何が大切で、どこに助けを求めることができるのか学べました。ジンオの事故で家族も支部も強められ、私たちは親密さを増し、一致し、相手とその必要にもっと敏感になれたように思います。人を愛し、奉仕したいという決意が今まで以上に強くなったことは確かです。」

総人口の0.1パーセントを占める韓国の末日聖徒たちは、福音の平安に包まれて、より一層の成長を決意しています。その決意こそ、絶えず花をつける無窮花のように、この美しい朝の国で末日聖徒たちを前進させる原動力になっているに違いないのです。□



# 教会員でない 両親

## 若人の広場

ケーシー・ナル

**永** 遠の家族についてのお話やレッスンを耳にすると悲しい気持ちになる人はいませんか。

両親がお休み会員だったり、教会員ではなかったりすると、一体自分の家族は日の光栄に行けるのだろうかと不安になりませんか。でもそれは、あなただけではないのです。父母のどちらかが、あるいは両親ふたりとも

が教会員でないという末日聖徒の若人はたくさんいます。そんな皆さんにここでいくつかの提案をしたいと思います。

両親が信じていなくても、福音は真実であることを知ってください。どのようなことがあってもこの真理は変わりません。

主に頼りましょう。頻繁に祈

PHOTOGRAPH BY STEVE BUNDERSON AND PHIL SHURTLIFF; POSED BY MODELS





りを<sup>ささ</sup>げ、主に近づいてください。主はあなたにとって何よりも大きな力となってくださるでしょう。

天のお父さまは、あなたを愛しておられるのと同じように、あなたの両親も愛していらっしゃることを心に留めましょう。

人を責めないようにしましょう。特に自分を責めてはいけません。両親が教会に行かないのはあなたのせいではありません。両親が教会に行きたくない本当の理由をあなたは知らないかもしれないのです。

批判したりせず理解し、心の支えになってくれるような友達を見つけましょう。

辛抱強く待ちましょう。困難を耐え忍ぶことにより、大きな祝福にあずかることができます。いつの日か物事が好転することもじゅうぶんあり得るのです。

### あなたの務めは

自分の考えを押し付けたりせず、両親に教会の大切さをわかってもらうにはどうしたらよいでしょうか。

● 良い模範となる。教会の集会にはすべて出席しましょう。良い態度を示し、教会の標準に従って生活しましょう。両親はあなたがこうした生活態度を教会で教えられたのを知っています。

● 両親に愛を示しましょう。イエス・キリストの福音により、私たちは両親をさらに深く愛するようになります。その愛が両親にしっかりと伝わるようにしましょう。ためになった両親の教えにも感謝を示しましょう。

● 自分の目標について両親に話しましょう。伝道に出、神殿で結婚するつもりであることを両親が知ったなら、そのときのために自分たちも準備しようと思ってくれるかもしれません。

● 教会の集会に誘いましょう。教会の集会すべてに出席してくれるようお願いしなくてもよいでしょう。しかし、自分が集会で話をしたりプログラムに参加したりするときに、両親が来てくれるとどんなにうれしいかわかってもらいましょう。

● 両親の支えとなりましょう。家事を手伝い、家族の活動にも積極的に参加しましょう。ただ息子や娘でいるだけでなく、愛にあふれた友として両親に接してください。

### 正しい視野に立って

私たちは、あるひとつの難題が根源となって自分の抱えているほかのすべての問題を引き起こしている、と考えがちです。たとえば、「父さんが教会に行くようになれば家の中の雰囲気も良くなって、ぼくが弟とけんかすることもなくなるし、学校の成績も良くなるのに」などと考えていませんか。(p. 44へ続く)



## フィリピンの歌声

1990年にアロナ・アラオンとジョナリン・アラオンが姉妹でバプテスマを受けて以来、フィリピン・ダエト地方部ラボ支部の音楽は、いよいよその麗しさを増しています。ふたりは地方部だけでなく、町や州、地区などのさまざまな規模の歌唱コンテストで50回以上も優勝しているのです。

ふたりは支部での伝道活動にもよく貢献しています。ふたりの優れた模範を目にして、彼らの両親もバプテスマを受けました。

ふたりの楽しみは、皆の前で歌を歌うことだけではありません。アロナ(15歳)は、学校ではチアリーダーとして、支部では音楽指揮者として楽しみながら活躍しています。ジョナリン(12歳)は、若い女性の活動とバレーボールが大好きです。□



そのような落とし穴に気をつけるとともに、自分の生活にはできるかぎり自分で責任を持ちましょう。どんな状況でもキリストのように生きると決心してください。両親は宗教に関係なく、あなたのこうした姿勢を称賛し、尊重してくれるでしょう。またこの姿勢によって、自分の人生は結局のところ自分で決めていくしかないということも理解できるようになります。

### 気持ちが落ち込んだら

困難な状況にあるときには、物事の良い面に目を向けることが助けとなる場合があります。気持ちが沈んだときには次のような言葉を心の中で繰り返してみましょう。

「幸福とは終着駅にあるのではなく、そこに着くまでの旅路の中にあるのだ。」(マーガレット・リー・ランベック)

「人生における最大の戦いは、心という小さな部屋の中で静かに行なわれる戦いである。」(エズラ・タフト・ベンソン大管長)

「汝心安かれ。汝の不幸汝の困苦はただこれ束の間なり。然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば、神は汝を高きに挙げたまわん。」(教義と聖約121：7-8)

「この故に汝ら心安かれ。万事は正しき行いを為す人々と教会の聖めのために結局好転すればなり。」(教義と聖約100：15)□

ウェールズの若い女性たちは、ルーマニアの人々に救援物資を贈った。



### ルーマニアへの援助

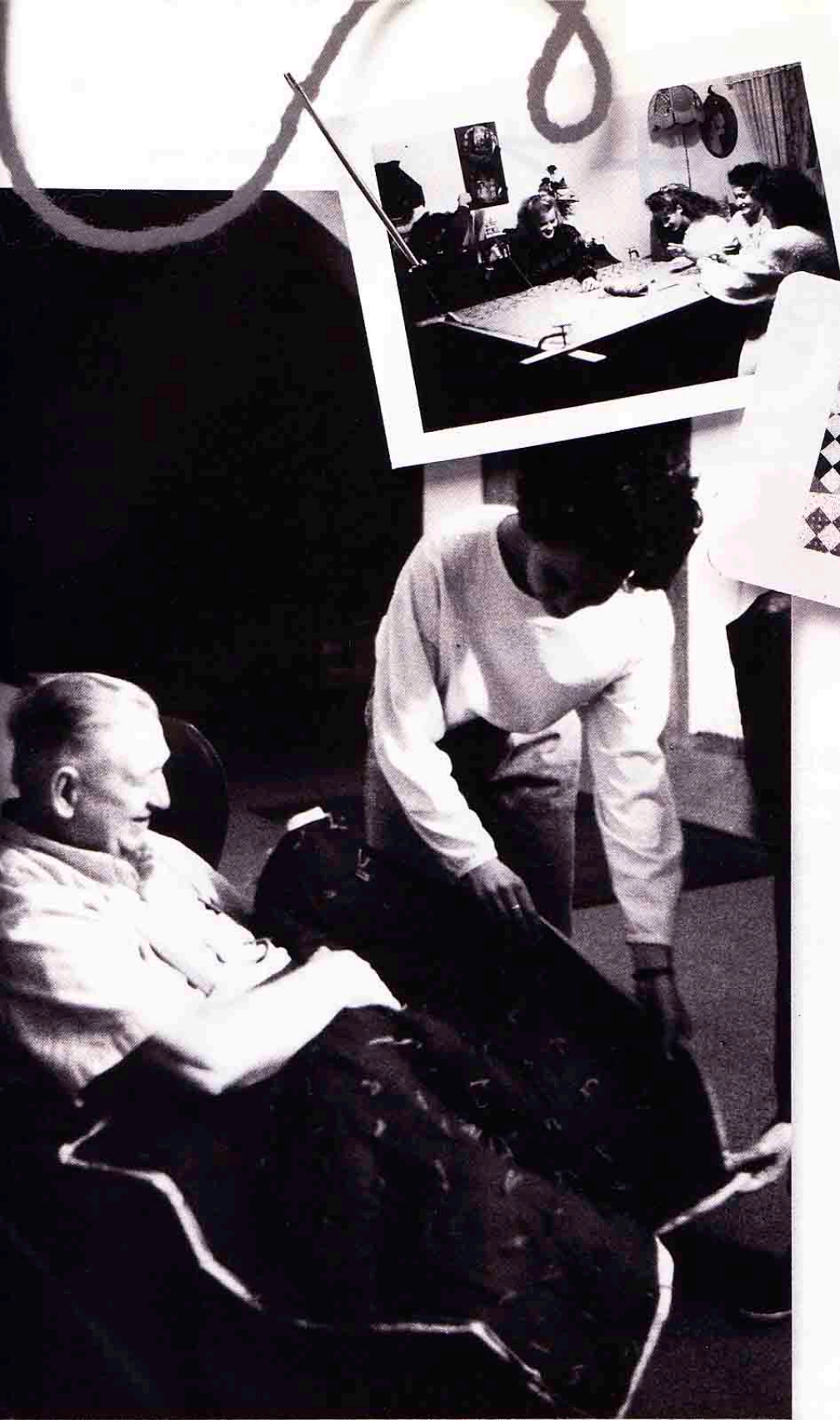
イギリスのウェールズ・マーサーチドヒルステーク部スウォンジー第1ワード部の若い女性たちは、飢えに苦しむルーマニアの人々の写真を見て、なんとか助けになりたいと考えました。

彼女たちは地元の企業をいくつも訪ね、ワード部でバザーを行なうための寄付を頼みました。お金だけではなく、品物の寄付やさまざまな協力もお願いしました。こうして町じゅうの人々が参加してくれました。そして、収益金で援助のための食料や薬、衣料をたくさん購入することができました。□

### ひとときも無駄にせずに

約束の時間に間に合うように大急ぎで駆けつけたのに、結局は自分の方が待たされて、時間を持って余ってしまう。よくあることですね。ユタ州アメリカンフォーク北ステーク部アメリカンフォーク第15ワード部のマイアメイドクラスの若い女性たちはこうした時間を有効に使うことにしました。待ち時間にキルトを作ることにしたのです。

毎月彼女たちは、指導者から「成長する私」のプログラムについての面接を受けます。この面接の前後の待ち時間を生かして、彼女たちは指導者の家の居間に置かれている制作台に集まって薄地



のキルトをすることにしました。材料はワード部の会員が寄付してくれました。出来上がったキルトは地域の療養施設の人々に贈られました。彼女たちは、今回のキルト作りで一

番楽しかったのは、キルトを贈る時だったと語っています。贈られた人々がとても喜んでくれたので、彼女たちはこれからはずっとこのキルト作りを続けることにしました。□

## すばらしい宣教師

学校を卒業する時、クラスの中で教会員が自分だけだなんて、寂しいですね。それなら皆さんもペンシルベニア州ピッツバーグ伝道部リッジウェイ支部のタミー・シックを見習ってはどうでしょうか。彼女はクラスメートふたりの改宗に貢献したのです。

しかし、彼女の伝道活動はそれで終わったわけではありませんでした。モルモン経についてクラスで発表し、教会員でない担任の先生にモルモン経を贈りました。さらに教会歴史を題材にしたレポートも作成しました。

□



# バルセロナで 最も価値あるもの

リサ・A・ジョンソン

PHOTOGRAPHY BY LISA A. JOHNSON ; STILL-LIFE PHOTOGRAPHY BY JED CLARK



バルセロナには、  
がっしりとして色  
鮮やかな美しい建  
物が建ち並んでい  
ますが、若い女性  
たちが証<sup>あかし</sup>を分かち合い福音を実践する  
姿も、それと同様にいきいきとして力強く  
美しいものです。

昨年、オリンピックが開催された時、世界じゅうの  
目が色鮮やかなスペインの町、バルセロナに注が  
れました。しかし、そこに住む末日聖徒の若い女性たち  
の目はどこに向けられているのでしょうか。

それを聞いたら皆さんは驚くことでしょう。

1992年夏季オリンピックの期間中、人々はバルセロナ  
の風変わりな建造物やデザイン、料理、色彩、文化につ  
いてたくさん耳にしたことでしょう。しかしそれらは末  
日聖徒の若い女性たちが人々に何よりも伝えたがってい  
ることはありません。彼女たちが、本当に分かち合い  
たいと望んでいるもの、それは福音なのです。

だからと言って、彼女たちがユニークな町の風貌に関  
心を持っていないというわけではありません。しかしそ  
れらは彼女たちにとっては生活の一部であり、当たり前  
のことのように思えるのです。そして末日聖徒のこの少  
女たちには、もっと大切なことがあります。それは、福  
音を分かち合うことです。なぜなら、彼女たちは、福音  
に従った生活が自分たちの生活にどれほど大きな変化を

もたらしたかを実感しているからです。

「教会の若者は、いつも幸せそうです。それが教会員  
でない若者に比べて際立って違う点です」と15歳のメリ  
クステル・トーマスは言います。彼女をはじめステーク  
部の若い女性はたいてい改宗者です。彼らのほとんどは、  
友人や宣教師から教会を紹介されたのです。「戒めに従  
えば本当の自由が得られ、幸せを見いだせることを学び  
ました。」

もし、ゆっくり彼女たちと触れ合う機会があれば、少  
女たちが心を感じている幸福を感じ  
取ることができるでしょう。彼女た  
ちは非常に忙しい毎日を送っていま  
す。毎朝、6時半に始まるセミナー  
ーに間に合うように起きる必要が  
あります。8時半から2時までは学  
校です。それからいったん「メ  
ディオディア」のために帰宅  
します。この言葉は、お母さ  
んが家族のために食事の準  
備をする、1日で一番忙し  
い時間帯を指します。手  
伝いの後、ちょっと一休  
みしたら4時から再び  
学校で2時間勉強し  
ます。6時に帰宅す  
ると、ほとんどい  
つも山のように  
出される宿





母親や娘、家族や友人、バルセロナのほとんどすべての教会員は、喜びを感じつつ最善を尽くして人々に福音を伝えている。バルセロナの贈り物の伝統を生かした伝道方法もその一例。

日にコンサートやスポーツ競技を楽しみます。しかし教会員はそれらに参加しませんし、教会員でない友人とともに過ごす時間がほとんどないこともしばしばです。

しかし、バルセロナの若い女性たちは、たとえわずかな時間でも最善を尽くして教会員でない友人に福音を紹介しています。「友達と一緒に街を歩いていて宣教師を見つけると、私はいつも彼らと呼ばい止め、話を始めます」と14歳のヌリア・ヒメネスは言います。「友達は『あの人たちはだれ？ あなた知ってるの？ 変な人じゃないの』と聞いてきます。そうすれば、私に説明の絶好の機会が訪れるわけです。」

彼女たちは、この「絶好の機会」を逃すことはありません。彼女たちは祝日も福音を分かち合うために使っています。一例を紹介しましょう。4月23日は「サン・ジョルディの日」といって、ほかの国のバレンタインデーによく似た祭日になっています。この日はまた、偉大なスペインの作家セルバンテスの亡くなった日でもあるのです。バルセロナが位置するスペインのカタロニア地方の伝統的な慣習として、この日には男性が女性にバラを贈り、女性は男性に本を贈ります。

バルセロナに住む末日聖徒の若い女性たちは、この伝統に一工夫しました。彼らはバラの造花を作ってモルモン経に挟み、宣教師に協力してそれを配ったのです。4月23日にバラや本を拒む人はいないでしょう。

福音を分かち合うとき、そのために信仰堅固な末日聖徒の若人がいかなる代価を払ったとしても、補って余りある喜びがもたらされます。事実、彼女たちは伝道活動が本当に好きで、彼女たちのだれもが、専任宣教師になることを将来の計画の中に入れていきます。「伝道に出ることは、すべての人にとって大切です」と17歳のモンセ・ベルムデスは言います。「伝道地では多くの事柄を

学びます。それは人生の礎<sup>いしづえ</sup>となるのです。」

世界じゅうの人々に真理を見いだす機会を持ってもらうのは、バルセロナの若い女性たちにとってとても大切なことです。そして、この地域の人々の本当の姿を世界じゅうの人たちに知ってもらうことも、彼女たちにとって大切なことです。

「スペインといえば、人々は闘牛やフラメンコダンスを思い浮かべるでしょう」と17歳のドネア・カブランは語ります。しかし、カタロニア地方で興味深いのはそれだけではありません。この地方のラテン系言語であるカタロニア語ひとつ取っても、スペインのほかの地方とはまったく異なっています。もっともほとんどの人は普通のスペイン語も話せます。

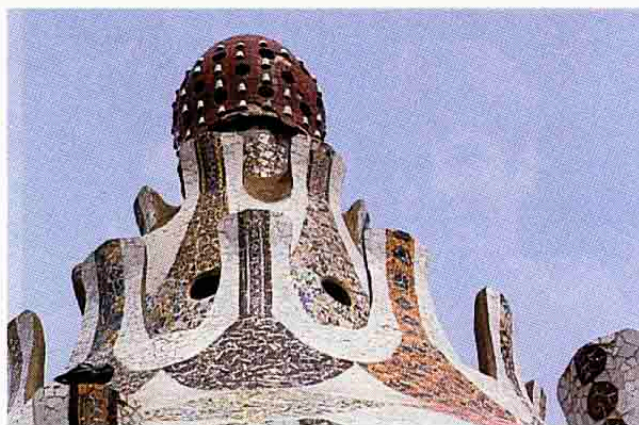
同様に食べ物もほかの地方とは異なります。スペイン各地には、ソーセージや豆、野菜などさまざまな取り合わせによる独特のシチュー料理があります。また朝夕を問わず、彼女たちみんなの大好物、パンコントマテもあります。これは、白くて堅めのスペインのパンをスライスしたものにトマトソースを付けたもので、少量のオリーブ油をかけたりもします。

もちろん、バルセロナにはスペインのほかの地方とは趣の異なった独特の建築物もあります。それは、ざん新で堅固で、そしてユニークなもので、末日聖徒の若い女性たちが受け入れた宗教とどこか似通っています。

この地には雄々しい精神が浸透しています。それは何かすばらしいことを行なう勇氣です。ときとして、それは一風変わって見えるかもしれません。この精神はバルセロナの建物に反映しています。そして、イエス・キリストの福音を受け入れ、分かち合うことによりすばらしいみ業を力強く推し進めている若い女性たちの生活にも反映しているのです。□



ジョセフ・スミスは、彼のいた時代、その地において、力強い新たなメッセージを伝えた。それと同じメッセージをバルセロナに住む若い女性たちも伝えている。彼女たちは伝道活動が大好きなのだ。



題に取り組まなければなりません。

ですから、平日の夜はほとんど自由時間がありません。それでも、彼女たちは時間を見つけては宣教師とともに伝道活動をします。

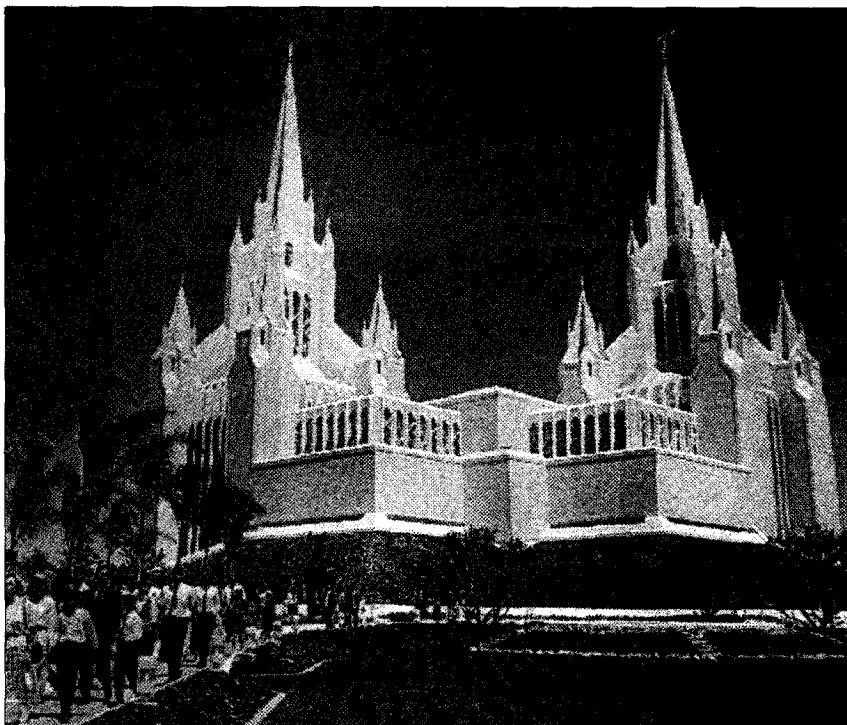
教会活動や特別なプログラムは大概土曜日に行なわれます。

忙しいスケジュールのため、バルセロナで末日聖徒として安息日を守るのはやさしいことではないと多くの人が言います。土曜と日曜には教会の集会や各種の企画、活動があるため、レクリエーションのための時間などほとんどありません。町の多くの人は日曜

# 45番目の 神殿が 献堂される

## カリフォルニア州 サンディエゴ神殿

合衆国カリフォルニア州で、去る4月25-30日、現在儀式が行なわれている神殿としては45番目となるサンディエゴ神殿が献堂された。この期間には3回のスペイン語の儀式を含めて23回の献堂式が行なわれた。約5万人の教会員が出席し、初回の献堂の祈りはゴードン・B・ヒンクレー第一副管長が捧げた。一般公開は2月から3月にか



一般公開には、延べ72万人が訪れた。

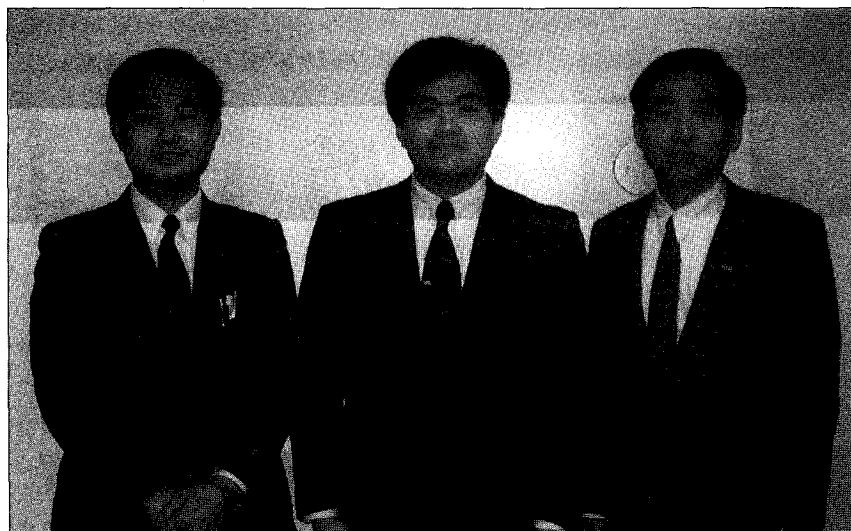
PHOTO BY DELL VAN ORDEN

けて1カ月半行なわれ、延べ72万人が訪れた。

同神殿は、1988年2月にエズラ・タフト・ベンソン大管長によって<sup>い</sup>輸入

が行なわれ、5年の歳月を経て、カリフォルニア州で3番目の神殿として、建設されたものである。〔チャーチニュース〕1993年5月1日付

# 再組織された 名古屋西ステークス部長会



去る2月28日、アジア北地域会長会第二副会長サム・K・島袋<sup>しまぶくろ</sup>長老管理の下に開催された名古屋西ステークス大会で、1983年7月よりステークス部長の責任を果たしてこられた堀田<sup>ほつたとある</sup>徹兄弟が解任され、新たに伊藤博康兄弟<sup>いとうひろやす</sup>(写真中央)が召されました。第一副ステークス部長には、堀口朋彦兄弟<sup>ほりぐちともひこ</sup>(写真左)が、第二副ステークス部長には、清水俊之兄弟<sup>しみずとしゆき</sup>(写真右)が召され、その任に当たります。



# 大きな家族のために

「人の値は神の前に大いなることを覚えよ」

名古屋西ステークス部長

伊藤博康

「宣教師に命を救ってもらった。」  
昨年バプテスマを受けられた若いご主人が、こうおっしゃっていました。私自身、宣教師との出会いがなければ、今ごろはどのような生活を送っていたことでしょう。

大学1年の夏休みも終わりに近づいたある日、私は定期券を買いに出かけ、交差点でふたりの外人を見かけました。道でも尋ねているのだろうと思って横を通り過ぎようとする、私の方を振り向いた彼らと目が合ってしまう、「すみません。ちょっとよろしいですか」と呼び止められました。

「私たちは、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師です。1度私たちのメッセージを聞いてくださいませんか。」1度ならと教会で会う約束をしました。小さいころから私は、祖母についてよくお寺に行っていましたので、いつか自分の信仰を持ちたいと思っていました。

そんな私は、宣教師から神様と救いの計画について学び、ふたつの点で大きく感動しました。ひとつ目は、小さいころから感じていた目に見えない不思議な影響力を及ぼす存在が神様で、動物や人が作ったものではなく、私たちと同じ形をした、人格を持ったお方であると教えられたことでした。ふたつ目は、自分が神様の子供で、教えを守って生活するならば、家族が死を越えてずっと一緒にいられるという教えでした。死は、だれにもどうすることもできない、人生の終わりと思っていた私にとって、永遠に家族と一緒に住めることは、大きな発見と喜びであり、どんなプレゼントよりも欲しいものでした。

確かに私も昨年改宗した先のご主人と同じで、宣教師に命を救ってもらったのです。福音を知るまでは周りに振

り回され、自分が何者なのかまったくわかりませんでした。しかし今は、日々生活するうえで頑強な柱があります。ある時、息子が突然こう尋ねました。「お父さんはぼくより先に死ぬの？」なぜ死についての質問をするのか私にはわかりませんでした、とにかく答えました。「普通は年上のの方が先に死ぬけど、どうなるかはわからない。どうして?」「だって寂しいんだもん。」息子のこの言葉を聞いて、私が「神様との約束を守ると、死んでも再び家族一緒にずっと住めるんだよ」と説明すると、息子はうれしそうにしていました。4歳の子ですので、どこまで理解したかわかりませんが、神様を信じて家族皆一緒にいたいという思いを抱き続けてほしいと思います。いつか子供は親の手を離れていくでしょうが、それまでに霊の手だけはしっかりとつないでおきたいと思っています。

このたび、大きな家族をいただきました。今まで感じたことがないほど、ステークスの一人一人が身近に感じられ、大きな家族ができたという幸せを感じています。これまで教会ではいろいろな責任をいただきましたが、とても楽しい思い出となっています。

最初の初等協会の責任では、まった

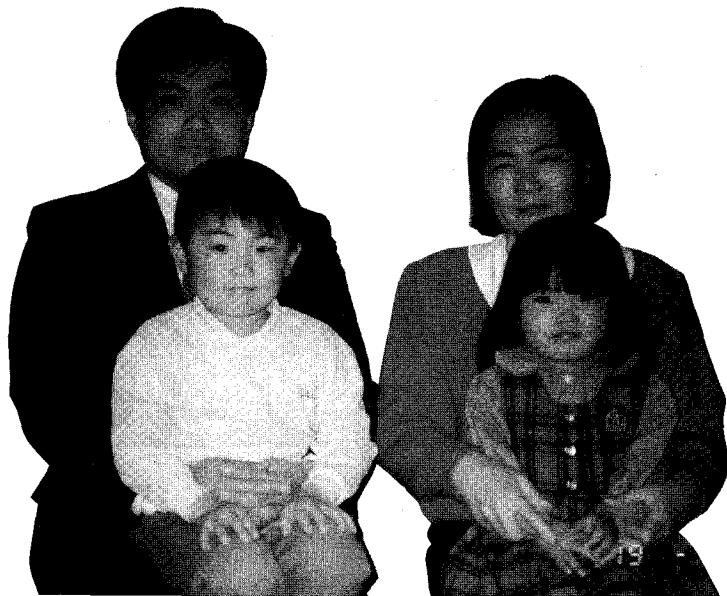
く教会のことを知らない私が、テキストから得た知識だけを頼りに教えていたにもかかわらず、子供たちは、先生、先生とよく聞いて質問してくれました。その子供たちのやさしく温かい笑顔を見たさに、私は教えていたように思います。

伝道中も、なかなか求道者が見つからず、この町には福音に耳を傾ける人はいないのでは、とがっかりした顔をしていると、同僚が「伊藤長老、スマイル、スマイル」とおどけながら励ましてくれました。神様の喜ばしい福音はにこにこして伝えるべきであると教えてくれたのです。

監督に召されてどうすれば良いかわからなかった時、ある姉妹が「監督さん、支持していますよ」と言って励ましてくれました。私のような者でも信頼してくださるならと、一つ一つですが、勇気づけられて奉仕できたように思います。当時のステークス部長の堀田兄弟には、高い霊性と主に対する忠実さ、そして一人一人に対する思いやりがありました。すばらしい羊飼いでしたので、喜んでついて行くことができ、また彼の下で楽しく責任が果たせました。私も彼の模範に従って、喜びをもって楽しく、この大きな家族のために働きたいと思っています。

いつも神様は私を愛し、こんな私でも価値を認めてくださいました。神の前では人の値は大いなるものであるという教義と聖約第18章10節の聖句が真実であると心から証します。

私の妻と子供たちに感謝しています。私にとってすばらしい家族です。(いとう・ひろやす)



伊藤博康ステークス部長ご家族

# 13代続いた仏教からの改宗

——実行の汗なしには真理は生きてつかめない——

東京北伝道部新潟地方部新潟支部

植木周三

**第**二次世界大戦後、教職に復帰し、新潟県立高校に勤めたのは私が40歳の時で、人生50年と言っていた時代でした。戦争が終わっても抑留されていたために、内地に帰還できたのは1年6カ月後でした。

定年退職後は妻同伴で神奈川県大和市の次女夫婦と同居し、バイオリンの個人教室を営みました。1986年に妻とふたりで新潟の三女の所へ遊びに行き、1週間ほど滞在しました。三女と孫娘はその時すでに改宗しており、私たち夫婦も宣教師からモルモン経をいただき、福音の勉強を始めました。

神のみ業の偉大なこと、神の御子イエス・キリストの一身を犠牲にしても人類を救わんとなさった、愛の極限のみ業に深く感動いたしました。

神奈川県の自宅に帰ってからも時折読んで勉強していました。その後新潟でお会いした宣教師が上京された折に一度拙宅まで訪ねられ、再会の機会を得ました。彼はバイオリンが弾けるので、その時ふたりでモーツァルトの曲を二重奏で奏し楽しんだのでした。近くの湘南台しょうなんだいに教会があると聞かされましたが、平生は日曜日バイオリンを教えているので時間が取れず、教会へは行けませんでした。ただ一度だけ三女が新潟から来た時に時間を作ってふたりで行っただけでした。

1990年12月、心筋梗塞で1カ月入院し、退院後もバイオリンの個人レッスンを続けていましたが、体調思わしくなく、教室を閉鎖して新潟の三女の家に来て、同居いたしました。1992年6月から新潟のがんセンターに通院。妻も先に神奈川で大腸の切開手術を受けた後だったので、一緒に月1回の診察と投薬を受けております。

今年1月からまた福音を学び始めました。以前の宣教師は誠実なお人柄で、きわめて熱心かつ親切に、私たち老人



植木周三兄弟(左から2番目)と娘さんの田中幸子姉妹(中央)、奥さんの房枝姉妹(右から2番目)

に対しても心境を深く配慮して教えてくださいましたが、今度のおふたりも私たち老人をいたわりながら、いろいろの質問もよく聞きとってくださいました。来日して日なお浅い長老が、日本語で熱心に、老夫婦をいたわりながら福音を教えてくださいくださったご努力には深い感銘を受けました。私たちはこのお3人のかたがたのお人柄に接し、福音を学び、まことにありがたく思っております。

3月21日、支部長はじめ役員のかたがた、教会員おおぜいのかたがたに見守られてバプテスマを受けさせていただき、老夫婦はそろって末日聖徒として認められることになり、感激の極みでございました。私は85歳、妻は78歳でした。13代続いた仏教からの改宗でしたので、最初ためらいは確かにありましたが、真理はひとつ、信仰はひとつ、安心して改宗する決心ができました。今後一層信仰をあつくし、愛情きわまりないみ教えを受けることの喜び

に満ちた生活に入ります。

人間は愚かな者で、正しいことを理解しながらも方向を変えられないものです。習慣がそうさせるのです。改宗すると日本人が日本人でなくなるかのように思っ、反対意見を言う人もあります。習慣の頑固さについて例を思いつきました。昔まだ牛肉を食べる習慣のなかった時代、私の祖父はお膳ぼんに二組の箸はしを用意して食事をし、肉を食べる時だけ別の箸を使っていました。胃袋に入ればみなひとつになってしまうのにと、現今の人なら笑うかもしれません。けれども祖父の時代の人にとっては、長年不浄視されていた肉食をしますので、箸も別にする必要があったのでしょうか。また、洋服にしても同じです。昔日本の軍人の服装はフランスにならった服装で、私の少年時代に聞いたことのある浪曲の中では、「服装はフランスなれど大和心の人々が」と語られていました。私も洋服と和服の二重生活は経験しています。今



# 神殿参入を通して得た祝福

——10年目の夫の改宗——

東京北ステキ部中野ワード部

五藤克子

では洋服だけで不自由を感じていませんが、日本人の心ははっきり持っています。

同様に、信仰も実践するときその価値を知り、証を得ることができます。聖書もモルモン経も読んでいます。「わが意を得たり」と非常にうれしく思うことがときどきあります。心で読まなくてはならない。それには日常行なって感じて読むことが大切だと思います。日常汗して実行しながら、聖書やモルモン経を読んで初めてその真理を解することができます。その実行の汗なしには真理は生きてつかめないことを知るべきと思いました。

娘(田中)幸子も孫娘(まきこ)も、私たち老夫婦が同居してからは一緒に福音の勉強をし、教会へも連れて行ってくれます。

私どもの国は過去において国内情況にも国際関係にもまことに不幸な一時期がありました。私も国防の最前線に青春の大部分を捧げ、中国大陸から南洋諸島に出征いたし、多くの戦友を失い、血涙にむせんだものでした。3回にわたって私の所属部隊が敵の攻撃的になり、機関銃、魚雷、爆撃のあらしに遭いながらも、奇跡的に軽傷で生き帰り、今日ある自分がまったく不思議です。神のみこころで生かされたのだと気づき、抑留中ジャガイモと米の粥(かゆ)を飯(めし)ごうの蓋(ふた)に1杯だけ、昼食はビスケット7枚で労働使役に従ったことを思えばどんな我慢もできると、戦争の続きだと思って働く覚悟で教育界に戻り、ご奉公させていただきました。

定年退職後も健康に恵まれ、一度病気をしたものの84歳までバイオリンの個人レッスンを続けることができ、今では食事から適度の運動に至るまで娘と孫娘が面倒を見てくれますので、安心して信仰の道に入ってこの上ない人生であると感謝しております。ただ歩くことが不自由で余生をお世話になった世の中に尽くすことができないのが心残りです。(うえき・しゅうぞう)

大学のサークル仲間だった現在の夫を教会に連れて行ったのは、13年前の夏のことでした。結婚すべきかどうか悩んでいた私は、年上の姉妹たちに相談することにしました。「教会外の人と結婚した人は皆、教会に來なくなってしまうから。」「教会員同士でもむずかしいのに、価値観が違う人と結婚生活を続けるのは、もっと大変ですよ。」予想どおり「大反対」でした。最終的に断食をして祈ると、「結婚して努力を続けるなら、夫は改宗する」という気持ちをととても強く感じ、まるで体の中を電流が流れたような気がしました。

婚約してから、夫は宣教師から福音を学び始めました。たばこをやめ、面接に臨みましたが、残念ながらバプテスマまでには至りませんでした。

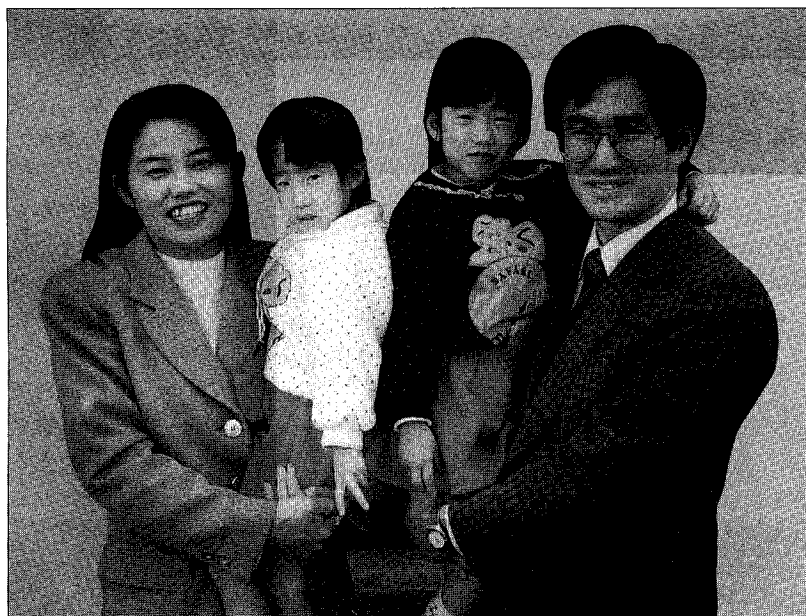
結婚してからは、毎週のように教会に出席してくれましたが、たばこも再び吸い始め、何の変化もない日々が続きました。夫には、証(あかし)がなかったので

す。

4年たっても子供に恵まれなかった私は、不妊治療と、神権の祝福によって妊娠することができました。しかし妊娠を告げられたその日、流産の危険があるために、入院することになりました。出血も止まらず、検査の結果から、「赤ちゃんは、だめかもしれません」と言われショックでした。ただ、希望だけは失わず、おなかに手を当てて主に祈りました。双子とわかったからにはなおさらです。

夫もたばこをやめて祈っていました。やがて流産は免れたものの、早産を予防するために長期の入院生活を送るうち、ひとりの子が双胎間輸血症候群という病気のため、あまり育っていないことがわかりました。

長くてつらい日が続きましたが、主はふたりの娘たちを救ってくださいました。超未熟児としての誕生でしたが、元気に育ちました。その娘たちが4歳になって、天使のような働きをしてく



五藤ご家族

れたのです。

去年の7月、夫の仕事で東京に移って来ました。神殿に入りたいと思い始めてからの思いも寄らない転勤でした。神殿に入る決心をして、引き延ばしていた先祖の救いを優先することに決め、家族の記録を書き始めました。

3カ月後、不思議なことが起こりました。10月31日、夫と私が娘たちを公園で遊ばせていた時に、私が次女をトイレに連れて行った2、3分の間のことでした。

8歳ぐらいの女の子が、長女をブランコに乗せてあげると言い、娘は喜んでブランコに座りました。女の子は立ち乗りで、力を込めてブランコをこぎ始めました。揺れはだんだん大きくなり、ブランコが高く舞い上がった時、娘はお尻がずり落ち、手だけでぶらさがってしまいました。次の瞬間には耐え切れなくなり、握っていた手を離してしまったのです。空中高く放り投げられた娘は、4メートルくらいの高さから落ちてしまいました。

下には、鉄製の囲いや、コンクリートの花壇があります。夫は、最悪の場合、頭の骨を折って死ぬか、良くて重傷と覚悟したそうです。

ところが娘が落ちたのは、運よく地面の上でした。しかも音もなく、そつと落ちたのです。すぐに泣きやんだ娘の頭や背中には、砂がついていましたが、痛みも訴えず、かすり傷ひとつありませんでした。打ち身によるあざさえできなかつたのです。

以前ジャングルジムから落ちた時には、1メートルほどの高さからでも大きな鈍い音がしたものです。後で夫は、娘が落ちた時の様子を、「まるで、ふわっと浮いたかのようなだった」と話してくれました。

11月になって初めて神殿に入り、エンダウメントを受けました。ウォルター・繁雄・照屋<sup>てんや</sup>神殿長ご夫妻が、夫が教会員でないことを知ると、「いいご主人ですね。きっとバプテスマを受けますよ」と口をそろえておっしゃるのです。そんな気配はまったくなかつたので、信じがたい言葉でしたが、ブランコの事件以来、夫は変わりつつあったのです。

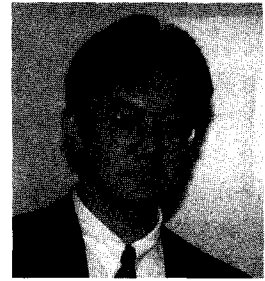
今年の2月に入って、「バプテスマを受けようかと思ってるんだ」という夫の信じられないような発言に、わが耳を疑いました。「どうして、そう思うようになったの?」「ひとつは、ブランコから落ちた時のことを考えて。もうひとつは、祈りの答えを受けたいんだ。」そのころ私たちは大きな悩みを抱えていました。夫はそれに対し、祈りの時、助けの手が差し伸べられるから安心なさいという言葉を与えられたというのです。言うまでもなく、その言葉は現実のものとなりました。

こうして夫は証を得ることができましたが、同時に大きなチャレンジにも遭いました。それら乗り越え2月28日、夫は決意も固くバプテスマを受けました。私にとってその日は、書けるかぎりの家族の記録を提出し終えた日でもありました。意識して合わせたわけではありませんが、偶然の一致ではないように思えてなりません。

結婚してから10年、聖霊を受け入れ、大きな犠牲を払って同じ道を歩く決心をしてくれた夫に心から感謝しています。主と先祖はもちろん、神殿で奉仕してくださる兄弟姉妹、お世話になった兄弟姉妹、さまざまな時にあって夫や私を教え、導いてくださった宣教師の皆様へ感謝します。

主は確かに生きて、私たち一人一人を守り、助けてくださっていること、神殿は人類の救いに必要な儀式が行なわれている神の宮居であり、啓示や力を授かる特別な場所であることを証します。「まず神の国と義とを求め」(マタイ6:33)、信じ続けるならば、祈りはこたえられます。自分にはできそうもないことでも、神にはできないことはないからです。(マタイ19:26参照)

私たち家族は今、神殿で結び固められることを次の目標として歩んでいます。一時は、神殿に入って主に近づけた喜びとは裏腹に、夫との距離がまた開いてしまった寂しさから、つらい思いもしました。けれども主は祈りにこたえ、夫を改宗に導いてくださいました。この祝福は、主と先祖によって備えていただいたと強く感じています。(ごとう・かつこ 扶助協会教師)



## 「わが思いは…… あなたがたの 思いよりも 高い」

札幌伝道部専任宣教師  
中西道崇

「19歳になったら伝道に出たい。」これが私の幼いころからの夢であり、目標でした。幼いころ両親に、「おまえはへその緒が首に巻きついて仮死状態で生まれてきたのに助かったんだよ」と言われました。「それなら神様はほくに何か使命を与えられたはずだ。それは何だろう。」こう考えた時、ただ漠然と、それは大きくなったら宣教師になることだと自分で決めたのが始まりでした。

その思いは変わることなく成長し、受験を考える年代になりました。私の家族は男の子ばかりの4人兄弟で、しかも私は長男です。私立の大学に行かせてもらう余裕はありませんし、第一、休学が困難です。19歳で伝道に出るには、現役で国立の大学に入るしかありません。神様のことを第一にすれば、正しい望みは必ずかなうと思ひ、それまであまりまじめにやっていたとは言えないセミナーを、毎朝先に勉強してから学校の勉強に取りかかるようになりました。

高校卒業後、無事に大学生になることができた私は、授業以外のほとんど



の時間をアルバイトと教会の責任のために費やしました。19歳になり、伝道に出る手続きを執るために、1年生が終わった時点での休学の申請を出したところ、大学側からは私的な理由での休学は一切認められないと言われ、非常に悩みました。それでも信仰を持って努力すれば必ずできると思い、何度も大学側との交渉を繰り返したり、ゼミの先生に相談したり、果ては監督に書いてもらった手紙を持って、学部長に直接頼みにも行きましたが、答えはすべて「許可できない」でした。自分自身を備え、よく祈り、断食もしました。アルバイトと授業で朝6時半には家を出て、夜の10時ごろ帰宅するという1年でした。

ここまで一生懸命努力しているのに、どうして神様は道を開いてくださらないのだろう。何度も何度もこう思いました。

大学を卒業してから出ることは、19歳で出ると決心していた私には考えられないことでした。自分の決心を思い起こす時、どんなに困難でも私が伝道に出るのは今しかないという強い気持ちで私を支えてくれるのでした。

「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それだけでなく、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」(Iニーフアイ3:7)この聖句を読むと、まだあきらめることはないと思い、大学側と交渉を続けました。

そんなある日、係の方に「休学は認められませんが、学費を納めていれば、授業に出るように強制はされません」と言われました。つまり身分は学生のまま、留年という形でなら伝道に出られるということです。私はよく考えましたが、2年分の余分な学費を両親に負担してもらわなければなりません。自分でためた伝道資金は微々たるもので、やはり大部分は両親に頼ることになります。また私は奨学金を受けていたので留年となれば奨学金も止められてしまいます。さらに、たとえ留年してその年の春に伝道に出たとしても、2年

後の春に大学へ戻るためには、3カ月以上も早い前年度の12月から1月の間に、ゼミの登録をしに大学へ行く必要があります。

監督や両親とも相談した結果、全員一致して「準備を整えてきた今、伝道に出るのが一番良い」という結論に達し、父の「学費のことは心配しなくていい。神様のみ業に全力を尽くしなさい」という言葉で安心しました。大学側も初めは冷たい対応でしたが、途中からは好意的になり、学費の納入方法や奨学金の問題もすべて解決していききました。

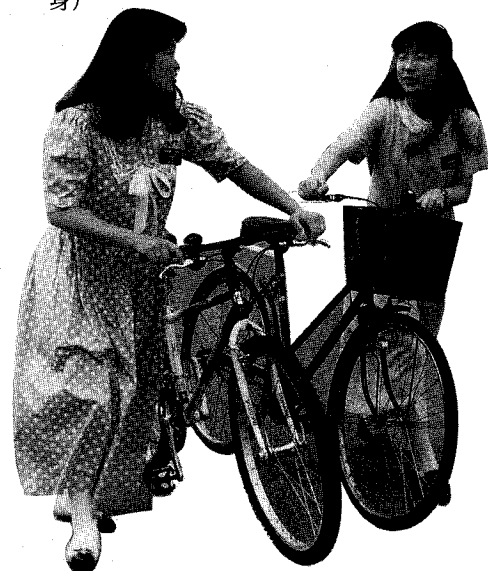
最も大きな祝福は、大学へ戻ってから、残り3年分の単位を2年間で取得できるように、大学側が便宜を図ってくれたことです。これなら在学中に伝道に出ても5年で卒業することができそうです。休学をして6年かかって卒業したり、大学卒業後に出たりするよりも、私にとっては結果的に恵まれた条件で伝道に出ることができました。まさに「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり……あなたがたの思いよりも高」かったのです。(イザヤ55:8-9)

神様はより大きな恵みを与えるために、その人の信仰を試されます。その時には、なぜ、どうして、と思うことがあるかもしれませんが、必ず問題は解決します。「わが子シブロンよ、お前が神にたよればたよるだけ、それだけ多くお前は自分の身に受ける試煉と苦しみと悩みから救われ、終りの日になって高くあげられる。」(アルマ38:5)アルマが息子シブロンに語ったこの言葉は、神様が私たちすべての子供たちに語っておられるものです。試練は人を成長させ、証を得させ、大きな祝福へと変わります。

私は福音を宣べ伝えるために、この北海道の地に来て1年以上になります。私の払ったわずかの犠牲は、この伝道というすばらしいみ業に比べれば、取るに足りないものです。伝道に出ても毎日困難な事柄は尽きることがありませんが、信仰を持って働けば、すべてが貴重な経験となります。伝道に出てわかったことは、私が今伝道に出ることを選んだのではなく、主が私を

今伝道するように選んでくださったということです。宣教師訓練センターにいたころ、ハリソン・テッド・プライス所長が、「あなたがたは、生まれる前から今働くように備えられてきたのです」とおっしゃっていたことが、今も強く印象に残っています。確かに私が出会う人々や働く地は偶然ではなく、主が私を導いてくださっていることを証します。

私の場合、19歳の春に伝道に出ようと決断したことは、人生の中で最高の選択であったと確信しています。伝道は私の人生を変えました。北海道の人人から数え切れないほど多くの愛をいただきました。伝道に出て本当の意味で福音が真実であることを知りました。私たちすべての人間は神様の子供です。そしてイエス・キリストは私たちの罪の苦しみや悲しみを取り去るために自らの命を捧げられた真の救い主です。予言者ジョセフ・スミスによって回復された福音が、今では全世界の何百万もの人々に永遠の喜びをもたらしています。私が愛する家族と永遠に結ばれていることに感謝しています。また、いずれ自分が作る永遠の家族のために神様は早い時期から欠かさずすることのできない体験を与えてくださいました。家族は私たちが幸福になるための最も大切なものであることを証します。私が伝道に出るに当たって、大きな犠牲を払ってくれた家族や、周りで支え、励ましてくださっている人たちに心から感謝しています。(なかにし・みちたか 仙台ステーク部福島ワード部出身)





# 試練は祝福

—生死の境をさまよって—

岡山伝道部松山地方部宇和島支部  
明神宏子

1989年、私たち家族の新しい家が建った年の暮れのことです。私は水痘(水ぼうそう)にかかりました。近くの開業医の診察を受け、薬が投与されました。その夜、夕食後の薬を飲み終わってしばらくして鏡を見ると、直径5センチ以上もある大きな水痘が顔じゅうにできていたのです。私は水痘のための水痘だと思い、気にも留めませんでした。そのうちに熱は41.7度になるし、ますます水痘の数は増し、全身に及びました。40度台の熱は下がらず、3日ほど過ぎたころには意識も次第に薄れていきました。

主人は主治医に助けを求め、私はすぐに救急車で市立病院に運ばれました。市立病院の医師は「ひどい薬疹だ。なぜこんなにひどくなるまでほうっておいたのか」と言われたそうです。運ばれた時にはまったく意識がなく、家族は医師に命が助かるかどうかかわらないと宣告されたそうです。

移動の間に全身のひどい水痘はほとんどがつぶれて表皮がはがれ、真っ赤になった皮膚に数人の医師が軟膏を塗り、ガーゼで覆いました。発疹は外皮だけでなく、すべての内臓と粘膜にまで及んでいました。全身ガーゼで覆われ、滅菌シートの上に伏していましたが、火傷のようにただれた皮膚から出る滲出液で、ガーゼもシートもびっしょりぬれ、毎日2度取り替えてもらっていたということです。薬疹のため解熱剤が使えず、高熱は続きました。意識もなく、うわごとばかり言って、夜昼なく抑えなくてはならないほどの痙攣を起し、苦しそうな息をする私を見続けていた主人は、「命が助かったとしても、普通の生活は無理だろう。もし命があったら、どこか田舎でふたりひっそりと暮らしていこう」と決心していたそうです。

入院したのは、正月の2日でしたが、次の日、家族からの連絡を受けて宇和島支部のふたりの兄弟が病院に来て、灌油の儀式を執り行なってくれました。その日、40度台あった熱は37度台に下がったと、家族が記録をしていました。

それから2日後、私の意識は回復しました。医療の力があつたにせよ、このように劇的な回復ぶりに神様の力を信じずにはいられません。改宗して初めて受けたインスティテュートで旧約聖書コースのレッスンを受け終わった直後の出来事だったので、すぐにヨブのことが頭に浮かびました。

皮膚が少しづつかさぶたとなって剥離するころになると、かゆくてヨブのように陶器の破片でかきたい気持ちでした。実際眠っている間に無意識にかいてしまい、朝起きてみるとガーゼが血で真っ赤に染まっていた時もありました。皮膚が剥離して真っ赤になっている背部は、豚や牛の皮などで保護されていましたが、それををはがして交換し、消毒薬をスプレーする時には針で刺されるような痛みが走りました。「神は……あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはない」(Iコリント10:13)という聖句を心の中で繰り返し、その痛みを我慢することができました。

1月11日、やっと目が開いて、うっすらと人影が見えるようになった時は感激でした。今でもはっきりと覚えているのは、意識がなかった間に見た夢のことです。白い、たとえようもない白い世界、そして高くて高く、果てしなく高い所を浮かぶようにどんどん上って行くと、真っ白い衣を着た方が待っていらっしゃいました。その方のお顔は白くて美しかったのです。私は白さの中に包まれて、この上ない平安な気持ちでいるのでした。

2カ月ほどで退院の日を迎えることができました。私はこの時、元気だった時とはまったく別人のようでした。顔は真っ黒で髪は抜け、まつ毛もまゆ毛もなく、当時9歳の息子のことを「お孫さんですか」と病院の清掃係の女性に言われました。看護婦さんは、「だれが見ても、ひどい状態だ。いつか窓から飛び降りるかもしれない」と一時は詰め所で心配していた、と教えてくれました。2カ月の入院生活でしかないのに、まるで20年の歳月を経たようでした。

退院後、外出する時は顔を隠すために、帽子、マスク、サングラスを着けて襟を立て、「こんなかっこうをしてギャングじゃあるまいし」と思うと惨めで、やはりつらい思いがしました。私の幼友達は、名乗らなければ、だれも私とはわかりませんでした。

けれども1年、2年と日がたつにつれて、黒い傷跡も薄れてきて、マスクやサングラスなしでも外出できるようになりました。

入院中、針で刺されるようなあの痛みにも耐えられたのは、神様が与えてくださった聖句のおかげです。そして、あの夢のために、私は常に神様に守られているという平安な気持ちで入院生活を送ることができました。私を強くするためにこのような試練に遭わせ、痛みにも耐えさせてくださった神様に心から感謝しています。神権を行使し、灌油の儀式をしてくださったふたりの兄弟に心から感謝しています。またこのつらい時期にずっと神様に祈り、私を愛し、支えてくれた家族がいることを感謝します。このことがあってから、子供たち3人はひと回り大きく成長したように思います。ひとつの試練が、私ひとりだけでなく、家族にも成長の機会となったことを感謝しています。

あれから3年、昨年はあの経験と証を思い出しながらインスティテュートの旧約聖書コースの教師の責任を果たすことができました。今年は家族で神殿に参入し、結び固めの儀式を受けることができました。家族で福音に従い、永遠の生命に至る道を歩めることを感謝しています。(みょうじん・ひろこ 支部扶助協会教育担当副会長)



# ひまわりのように

私と 愛する家族の主よ

私の父母ちちははの 先祖たちの主よ

とこしえから とこしえへ

生まれ 死に また生まれくる人類の主よ

ああ 大いなるみ空にいます主よ

私は夏の花 灼熱しやうねつの花

ひまわりを見上げて あなたを思います

ひたすら忠実に 太陽を追うひまわりは

私の憧れ 私の道しるべ

私も顔を高くあげて あなたを慕います

一本足で どこへも行けないひまわりは

狭い露地裏で 大きく成長しながら

全身傾けて あなたを慕っています

狭いことに不服も言わず

どこへもゆけないことにも つぶやかず

あるがままで 輝いて

あなたを慕っています

私は二本足

私の思いのまま どこへでも行けます

私に与えられた病床の姉妹を訪ね

やさしい言葉を差し出すこともできます

気落ちした姉妹の隣の椅子に行つて座り

共に悲しむこともできます

ある日は 慰められて

明るく家庭に帰つてくることもあります

ああ 主よ

まっ黄色のひまわりを見上げる

この二つの瞳を ありがとう

やさしい言葉によつて

自分自身慰めを得る

この赤い唇を ありがとう

美しいメロデーに勇気づけられる

二つの耳を ありがとう

低いけれど バラの香りを嗅ぐことのできる

私の鼻を ありがとう

幼な子にフルーツポンチを作つてあげられる

この両手を ありがとう

急いで友のもとへ 走つてゆける

この両足を ありがとう

主よ

あなたの見守りの中で

あのひまわりのように

忠実に ころろ自由自在に

私は 生きたい

私があなただのうちにある時

本当のほほえみ

本当の美しさ

本当の喜び

本当の生きがいは 泉のように湧き上がる

ああ 主よ

どうぞ つかまらせて下さい

愚かな私を

一本のひまわりにも及ばない この私を

あなたの袖そで口に

あなたの白い衣の裾すそ先に

どうぞ つかまらせて下さい

いつも いつも いつの時も

思いつめた ひまわりのように

慕わせて下さい

(名古屋伝道部石川地方部

金沢支部 徳沢愛子)



# 祈りに導かれて

—— 1日にたばこ60本、酒5合の生活から ——

岡山伝道部松山地方部新居浜支部  
藤谷四郎

「宗教！ そんな関係ないね。」  
私は、若いころそのように思っていました。家業として大きな人形店を営み、私は四国では珍しい存在の人形師として、地元のテレビ局の取材に応じたり、順風満帆の日々に高慢な思いを抱いていました。ところが、1977年9月に人形店が倒産し、その影響で妻と離婚し、妻は娘を連れて実家に戻りました。

妻の家財道具を次々に運ぶ車の中で、涙が流れて仕方がありませんでした。しかし半年間かかった倒産の後片付けを終えると、私は妻子の住む新居浜に来て、復縁をしました。当時の生活は貧しく、親子3人、食べるのが精いっぱい状態でした。そのうえ娘は言葉が遅く、8歳くらいまではっきり話すことができませんでした。つまり当時は障害者として、保育園に入れてもらえなかったのです。妻は生命保険の外交員をし、私は大工の見習いをしていました。

そのころです。イエス・キリストの名前を聞いたのは。プロテスタント系

の教会が開いている幼稚園で、娘を受け入れてくれたのです。クリスマスや日曜礼拝の案内でキリストの名を知りました。それでも身近には感じませんでした。当時の私は仕事がうまくいかず、毎晩酒を飲んで妻に当たりちらしていました。本当にすまないことをしたと今では思っています。

1984年9月18日、その日も仕事がなく、朝から酒を飲んでいて、妻は買い物に出かけて留守でした。午後1時ごろ「ごめんください」という声で、私と娘が玄関に出てみると、ひとりは外人、もうひとり日本人の若者が、笑顔で立っていました。そして外人の方がたどたどしい日本語で、「私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師です。少し話を聞いていただけませんか」と言ったのです。私は外人が玄関にいるのと、その外人に日本語で話しかけられたのに驚いて、突如、「いいですよ」と返事をしてしまいました。それまでも飲酒中に軽く人に約束をしたり、新聞勧誘を断われなかったりしていたので、買い物から帰った妻に、

「宗教の人なんて……断わればいいのに」と言われました。

しかし、なぜか家族で次の火曜日、9月25日に宣教師を迎え、その後ずっと宣教師の訪問が続くことになりました。我が家には、多くの宣教師が主のメッセージを携えて訪れてくれました。妻は、ほどなくして多くの質問を宣教師にぶつけるようになり、聖典を読み始めたようでした。私は少しモルモン経を読み、信じられなかったので質問もありませんでした。しかも、私はそのころ1日にたばこ60本、酒を5合ほど飲んでおり、「知恵の言葉」を守るためにそれらをやめることなどとてもできないと思っていました。それでも宣教師は、毎週1回、必ず我が家を訪れてくれました。

半年くらいたったころ、妻は「お父さん、バプテスマを娘と一緒に受けたいのだけど」と言いました。私は、「いいよ。しかし、ぼくは受けないよ」と返事しました。そして先に妻と娘が、1985年3月3日、バプテスマを受けました。

その後も宣教師の訪問は続きましたが、私は、酒とたばこをやめようとも思わず、また彼らの話に興味も薄れてきていました。

10月初旬、何人目かの日本人宣教師が1枚の紙を持って我が家を訪れ、その紙を床の間の掛け軸に丁寧にはりました。その紙には、大きく「祈り」と書かれていました。そしてふたりの宣教師は真剣に「藤谷さん、祈ってください」と私の目を見ながら言うのです。私は彼らを見つめて祈る約束をしました。それ以来、私は祈りという文字を頭から離すことができず、心の中で「神は本当にいるのか。主は本当にいるのか。モルモン経は真実なのか」と、いつも問い続けました。そのうち、やめるつもりがなかった酒、たばこが少



藤谷ご家族



# 週ごとにテーマを決めて

仙台伝道部盛岡地方部北上支部

福間寿子

しずつ減るようになり、そして、ある日、完全にやめることができたのです。それは、主が祈りの答えとして、形に見せてくださったのではないかと、今では思います。そして1985年10月27日、主の愛と多くの人々の祈りによってバプテスマを受けることができました。

バプテスマを受けて8年間、いろいろなことがありました。私たち家族は、一時期、教会に集えなかったこともありましたが、しかし、主のことを忘れたことはありませんでした。再び家族そろって教会に戻り、支部長をよく支持して、毎週休まないで教会に集い始めました。支部長の助言と愛によって、1991年4月5日、東京神殿で妻と娘とともに家族の結び固めの儀式を受けることができました。

現在私は、教会では支部長に召され、日常生活にあっては大工の親方として、毎日を忙しく働かせていただいています。小さかった娘も今春大学生となり、岡山ステキ部倉敷ワード部にお世話になっています。

神様は、私にさまざまな経験を与えてくださいました。ときには苦しい試練を、ときには祝福を与えてくださいます。多くの経験を通して福音を学べたこと、多くのすばらしい友と与えられたこと、その友と悲しい経験やうれしい経験を分かち合えたことを感謝しています。

「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人をあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである。」(マタイ20:26-28)

私も主の模範を通して、多くの人々にお仕えしていかなければと思っています。主はいつも私たちのすぐそばにいて、苦しい試練のとき、病のとき、悲しみにふさがれているときに、私たちを抱き、支えてくださっていることを、これまでの多くの経験と、それに伴っていただいた祝福から心より証いたします。(ふじたに・しろろ 支部長)

**改** 宗者である私たち夫婦にとって「家庭の夕べ」は「開会・レッスン・活動・閉会・リフレッシュメント(おやつ)」という順序以外、内容については具体的なイメージがわからず、あれこれ自分たちなりに行なってきました。長女が生まれてからも家庭の夕べの時間は聖典学習・系図など夫婦だけで行なっていましたが、ある時友人から「子供が1歳半になる前に家庭の夕べに子供を参加させる方がよい」という話を聞き、早速当時1歳7カ月だった長女を交えて家庭の夕べを開くことにしました。

家庭の夕べで何をするか試行錯誤して、3年前に考えついたのが週ごとにテーマを決めることでした。そうすることにより毎週毎週レッスンを何にしようか迷うこともなく、準備がとてもしやすくなりました。テーマは年頭の目標を立てる時に夫婦で話し合い、子供たちに必要なテーマを決めます。今年の週ごとのテーマは次のとおりです。

第1週—<sup>せいさん</sup>聖餐

第2週—大管長会メッセージ

第3週—自由

第4週—1分間スピーチ

第5週—自由

第1週には3年前から「聖餐」をテーマに取り上げてきました。我が家は

現在6歳、4歳、2歳前と子供たちがまだ小さいので、聖餐会の時静かに座っていることができるように、儀式中の態度、聖餐の取り方、聖餐の意味など、繰り返し繰り返し教えています。具体的には、実際にいすに座って腕を組んで静かに待つ練習(まね)を親も一緒に座ってやってみます。以前に比べて本番で練習の成果が少しずつ表われてきました。

先日、末娘が初めてひとりですら腰掛け、腕を組んで目を閉じて静かに待ち、聖餐を自分で取った時は、上のふたりはとても驚き、喜んでいました。相乗効果で、互いに良い影響を及ぼし合い、聖餐会を良い思いで過ごせるよう望んでいます。聖餐の意味については、最後の晩餐の絵や、聖典などを使って、聖餐式の起こり、パンと水が意味するもの、聖餐の祝福の言葉の意味などを、少しずつわかりやすく教えています。今後は、賛美歌の歌詞とメロディーを1曲ずつ味わうことも行なってみたいと考えています。

第2週は、「聖徒の道」最新号の中から、大管長会メッセージまたは子供たちに必要な記事を選んでわかりやすくレッスンします。

第3週と第5週は特にテーマを決めず、扶助協会のレッスンや「家庭の夕べアイデア集」などから必要なものを選んでレッスンしたり、聖典の物語を



福間家族

## 6月に召された専任宣教師

第167期生16人

聞かせたりします。今年は初等協会の発表に合わせて神殿に関するレッスン(「せいとのみち」分かち合いの時間のページ参照)も取り入れています。

第4週には、ひとりずつ立って、1分間のスピーチをします。最近身の回りに起こった良いことを話します。将来お話をするときの訓練になればと思います。

特別な行事(復活祭・クリスマスなど)のある月はそれに合わせたレッスンと活動を行ないます。

レッスンはここ数年はもっぱら父親(夫)がして、母親の私はそれを手伝う程度です。(もちろん初めからこうではありませんでしたが……)子供たちが眠くなるのでレッスンは短くワンポイントに心がけています。

司会は長女と次女が毎月交替で行なっています。自分で賛美歌とお祈りを決めます。そのうち三女が話せるようになれば、3人でローテーションを組むことになるでしょう。

子供が小さいので、活動はおじいちゃんおばあちゃんに手紙を書くなど、たまに行なう程度でしたが、昨年の秋、長女(年長組)がお遊戯会で劇をした直後の家庭の夕べでは、夕方までに長女と次女が紙で人形を作り、創作劇を披露してくれました。それ以来、ときどき自分たちで踊りなどの出し物を準備するようになり、私たちを楽しませてくれています。家庭の夕べが始まると三女がにこにこして本棚から賛美歌を取り出して来てくれることもあり、彼女なりにお手伝いしてくれます。

開会が遅くなって家庭の夕べの途中子供たちが眠ってしまったり、レッスンなしで聖典だけ読んで終わったりすることもあります。毎週続けて行なえることを感謝しています。家族の中でいろいろな発見があったり、子供たちの自主性を養ったり、何より子供たちが楽しみにしてくれているのが大きな祝福です。今回改めて我が家の家庭の夕べを振り返ってみて、主の愛を強く感じる事ができました。家庭の夕べを行なうことにより、主の愛が家庭に宿り、家族のきずなが強められ、多くの祝福があることを証いたします。

(ふくま・ひさこ 支部扶助協会会長)



後列左から1-5, 中列左から6-11, 前列左から12-16

(名前)	(出身地)	(伝道地)
1. 佐藤 公一	仙台M/郡山D/いわきB	岡山伝道部
2. 小島 勲	東京北S/豊島W	岡山伝道部
3. 武藏野 博信	横浜S/横浜第1W	岡山伝道部
4. 吉田 孝	仙台M/盛岡D/盛岡B	沖縄伝道部
5. 鈴木 弘信	横浜S/小杉B	札幌伝道部
6. 高橋 佐知	岡山M/松山D/高知B	仙台伝道部
7. テロアテア・マニ	Papeete S/Takarua W	岡山伝道部
8. 高岡 優子	福岡M/熊本D/白川B	神戸伝道部
9. 植田 建一	広島S/浜田B	東京南伝道部
10. 山本 修治	名古屋S/名東北W	東京南伝道部
11. 千葉 隆芳	神戸S/明石W	大阪伝道部
12. 池田 静香	神戸M/福知山D/西脇B	東京北伝道部
13. 松倉 春美	京都S/下鴨W	名古屋伝道部
14. 中山 裕美	東京北S/川越W	神戸伝道部
15. 藤原 香織	札幌西S/手稲W	大阪伝道部
16. 衛藤 美和	福岡S/北九州W	東京北伝道部

M:伝道部, S:ステーク部, D:地方部, W:ワード部, B:支部



## ブックセンターからの お知らせ

### 新刊(手話入りビデオ)



- 「本物の幸福」(手話入りビデオ)

VHS カタログ番号 86256 300 27分 ¥1,500

回復された福音が、娘の直面していくさまざまなチャレンジに答えを与えてくれることを見いだした若い夫婦の物語。昨年発売された同ビデオ(53059 300。¥1,200)に手話通訳が付加されています。

- 「天父の計画」(手話入りビデオ)

VHS カタログ番号 86257 300 29分 ¥1,500

音楽とひとりの青年の証を通して、人生の目的についてのさまざまな疑問に対する答えが与えられます。発売中の同ビデオ(53031 300。¥1,200)に手話通訳が付加されています。

- 「愛の働き」(手話入りビデオ)

VHS カタログ番号 86255 300 25分 ¥1,500

ひとりの帰還宣教師が、伝道の目的、福音を分かち合う喜びを伝えています。昨年発売された同ビデオ(53060 300。¥1,200)に手話通訳が付加されています。

## お知らせ

### 役員の異動

1993年3月31日から1993年6月7日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

- 岡山伝道部山口地方部  
新地方部長：平松彰  
(前任者：藤竹幸雄)
- 仙台ステークス部上杉ワード部  
新監督：塩英雄  
(前任者：川村明)
- 仙台伝道部秋田地方部酒田支部  
新支部長：小林修一  
(前任者：村岡由美夫)
- 仙台伝道部秋田地方部鶴岡支部  
新支部長：佐藤浩行  
(前任者：伊藤誠男)
- 東京ステークス部三鷹ワード部  
新監督：佐藤清彦  
(前任者：稲垣行正)
- 東京西ステークス部甲府ワード部  
新監督：磯部松久  
(前任者：萩原彰)
- 名古屋西ステークス部福德ワード部  
新監督：高橋宏至  
(前任者：伊藤雅樹)

- 名古屋伝道部富山地方部高岡支部  
新支部長：礪波和也  
(前任者：柴田昇)
- 大阪堺ステークス部泉北支部  
新支部長：宮田幸彦  
(前任者：尾崎昭彦)
- 神戸伝道部福知山地方部相生支部  
新支部長：新谷国昭  
(前任者：村上清)

### 名称変更

1993年4月25日、京都北ステークス部と京都南ステークス部が合併し、新たに京都ステークス部が組織されました。

- 京都ステークス部  
ステークス部長：木村研一郎
- 京都ステークス部下鴨ワード部  
監督：川端晃一
- 京都ステークス部西京極ワード部  
監督：佐藤公治
- 京都ステークス部城陽ワード部  
監督：中村信臣
- 京都ステークス部伏見ワード部  
監督：桑田猪之吉
- 京都ステークス部大津ワード部  
監督：坂口浩一
- 京都ステークス部彦根ワード部  
監督：下川光男

## 編集室から

### 皆さんの原稿を 募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、家庭の夕べを紹介する記事などをお送りください。

▶投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を記入し、写真を同封のうえお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただきますことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

▶あて先：☎150 東京都渋谷区桜丘町28-8 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室  
電話03(5489)9251  
ファクシミリ03(5489)9254

### おわびと訂正

1993年7月号84ページのニール・L・アンダーセン長老と86ページのD・トッド・クリストファーソン長老の写真が入れ違いになっていました。おわびして訂正いたします。

## 6月に召された専任宣教師

第167期生16人



後列左から1-5, 中列左から6-11, 前列左から12-16

(名 前)	(出身地)	(伝道地)
1. 佐藤 公一	仙台M/郡山D/いわきB	岡山伝道部
2. 小島 勲	東京北S/豊島W	岡山伝道部
3. 武藏野 博信	横浜S/横浜第1W	岡山伝道部
4. 吉田 孝	仙台M/盛岡D/盛岡B	沖縄伝道部
5. 鈴木 弘信	横浜S/小杉B	札幌伝道部
6. 高橋 佐知	岡山M/松山D/高知B	仙台伝道部
7. テロアテア・マニ	Papeete S/Takaroa W	岡山伝道部
8. 高岡 優子	福岡M/熊本D/白川B	神戸伝道部
9. 植田 建一	広島S/浜田B	東京南伝道部
10. 山本 修治	名古屋S/名東北W	東京南伝道部
11. 千葉 隆芳	神戸S/明石W	大阪伝道部
12. 池田 静香	神戸M/福知山D/西脇B	東京北伝道部
13. 松倉 春美	京都S/下鴨W	名古屋伝道部
14. 中山 裕美	東京北S/川越W	神戸伝道部
15. 藤原 香織	札幌西S/手稲W	大阪伝道部
16. 衛藤 美和	福岡S/北九州W	東京北伝道部

M:伝道部, S:ステーキ部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

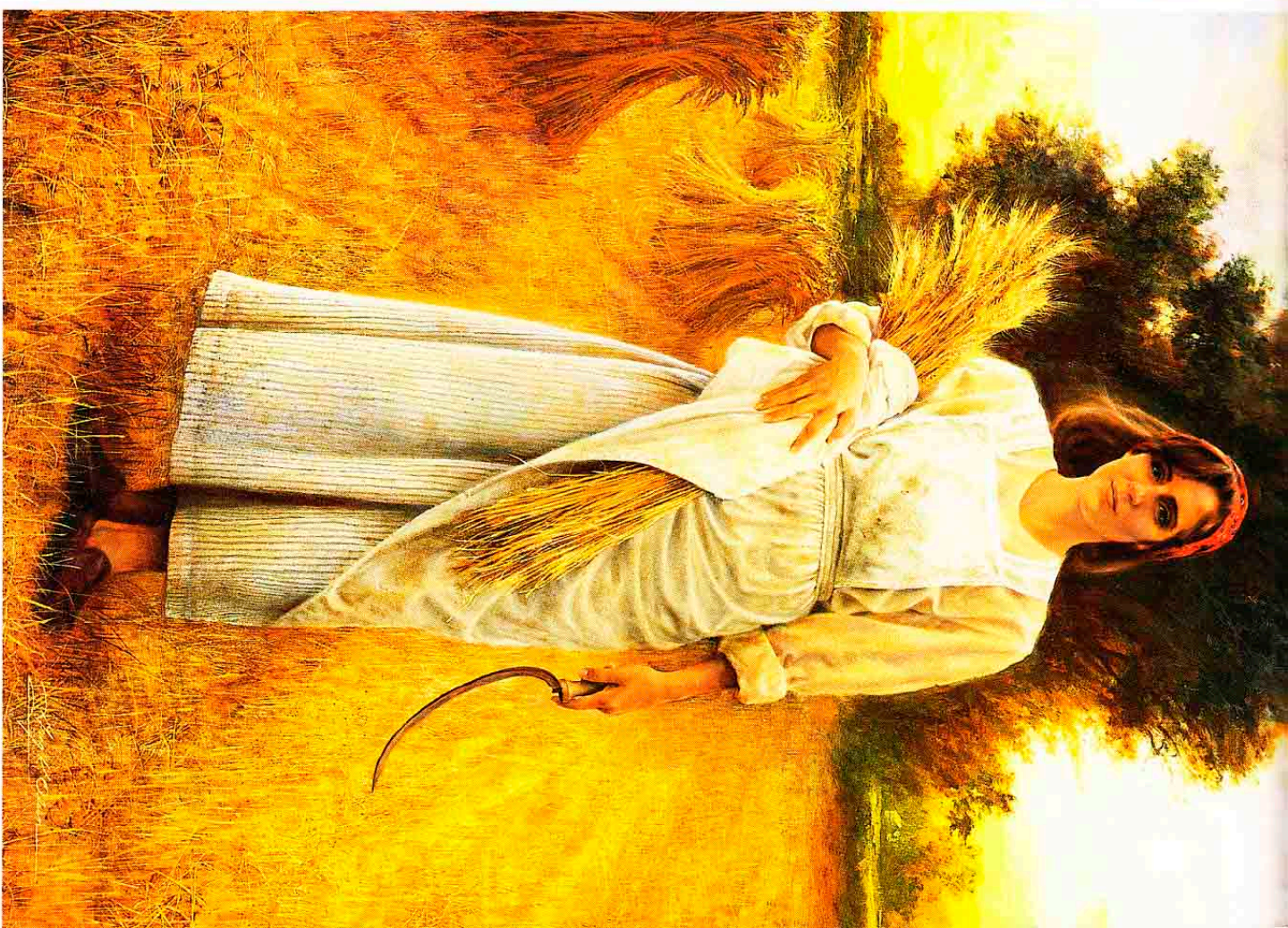




「種をまく者と刈り取る者」

「目をあげて畑を見なさい。はや色ついで刈入れを待っている。

刈る者は報酬を受けて、永遠の命に至る実を集めている。まく者も刈る者も、共に喜ぶためである。」(ヨハネ 4 : 35—36)





マリのワレサブーグーでは、マリアで最初の教会員となったモディボ・ディアラ兄弟(表紙)の助けを得て、3万5,000人の人々が生活環境の改善に取り組んでいる。(本文「試練の後で祝福が」pp. 8-11参照)



MALI PHOTOGRAPHY COURTESY OF THE OUELESSEBOUGOU-UTAH ALLIANCE

